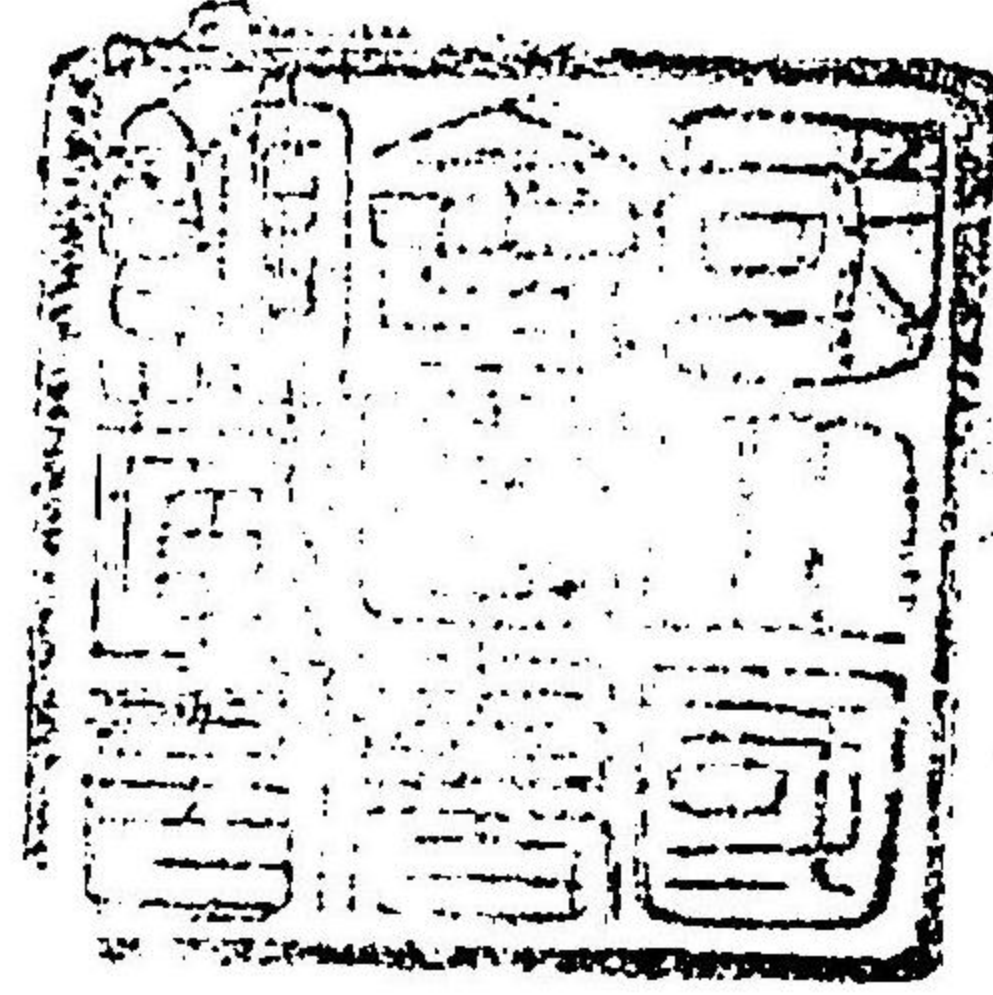


浪華名家墓所記

草稿



28163M656



33667

### 首書

此書は曉晴翁半成の遺書にして（後人追加せし所あり、今識別すべからず）手書の稿本浪華書肆鹿田松雲堂の所藏なりしを、客冬轉借して之を謄寫し、稿本と併せて倉津奎雲堂に托せしが、本年一月九日彼宅火災の際烏有に歸す、遺憾不少、京都富岡鐵齋翁方に同贖本の所藏あるを聞き、乞ひて借覽するを得て再寫せり、原稿書名未だ定らず、浪華名家墓所集とは、鐵齋翁の命する所なり

維時明治三十四年七月上澣

大阪 泉

右は原寫本に附記せる所なり、曉晴翁の遺稿に後人が補足したることは、同翁の墓所を記せるにても知らるゝなり

我友味原水也子、これが追補として浪華人傑談、京攝戲作者考、名人忌辰錄、大日本人名辭書、しがらみ草紙、浪華墓誌、其外俳優追善繪、諸新聞等に載する所を摘録し、更に又著名の數ヶ寺に就きて實地目撃せし所を記入し、彼是合せて二百六十餘名を加へたり（予は醫家その他十數名を加へたるのみ）今之を區別せんがため、原寫本にありし人名の上には●印を附し、追補には○印を附す

原寫本は再三の轉寫なるを以て、焉馬魯魚の誤字多かるべく、加ふるに寺院の移轉或は廢絶、墓石の湮滅等も少からざるべし、又其名の墓所集といふに適せず、單に氏名略傳等のみにて、未だ墓所の記入なきもの多し、これ未定稿其儘なるを以て也

尙又原寫本は一月一日を筆頭とし、忌辰日の順序によりて記したるものなりしが、味原水也子これを變更して、氏名稱呼のわいうねお順に拔寫せしがため、氏名稱呼の誤讀誤寫、同姓父子、流派師弟、年代早晚等の順序亂雜となりて、搜索の不便は云ふまでもなく、刊行本としては不体裁至極のものなれども、是亦草稿の儘とす、今これに校訂追補を加へて完全のものたらしめんとするには、數ヶ年の歳月を費やすとも尙足らざるべし

要するに、斯くの如き亂雜不完全のものたりといへども、看る人は幾分益する所あるべく、又其誤謬或は遺漏を發見せし人は、これに筆を加ふるの興味もあり便利もあらんと信じ、敢て茲に之を公刊せしなり

明治四十四年二月

無責任者

宮武外骨

目次

〔わ〕

淺生庵野坡	一	嵐吉三郎	三	一峰齋馬圓	五	岩永昌昌	八
淺山蘆洲	一	嵐猪三郎	三	石田玉山	六	岩永隆恭	八
麻田剛立	一	嵐璃寛	三	一時軒惟中	六	岩永榮安	八
有賀長因	一	茜屋半七	三	五十嵐金雪	六	永岩文恭	八
有賀長收	一	嵐三七郎	四	一樹亭朶雲	六	岩永文楨	九
青木宗鳳	一	嵐里環	四	一文舍錢丸	六	岩永文卿	九
淡太郎	二	嵐鯉昇	四	石津亮澄	六	稻野年恒	九
足立安正	二	綾瀬川	四	佚山	六	〔S〕	
淺野高三	二	朝日山	四	出田卉園	六	浦川富夫	一〇
東竹堂	二	〔S〕		今泉芝軒	六	浦西可亭	一〇
曉晴翁	二	一本亭芙蓉	五	市川團十郎	七	浦川公左	一〇
晴鐘成	二	稻津祇空	五	市川團藏	七	上田秋成	一〇
天野屋利兵衛	二	稻垣休叟	五	市川皴十郎	七	上田公長	一〇
有賀長伯	二	一井鳳梧	五	石井宇右衛門	七	上田公圭	一〇
嵐三右衛門	二	入江昌喜	五	飯岡澹寧	七	雨香園柳浪	一〇

目次

一

魚住荆石	一〇	興蒙所	一四	桂宗信	一七	鼎金城	一九
梅川忠兵衛	一〇	大江丸	一四	片山北海	一七	河竹能進	一九
上田耕冲	一一	大枝流芳	一四	加藤景範	一七	高良齋	一九
[一〇]		大原東野	一四	各務相二	一七	片岡仁左衛門	一九
江田世恭	一一	奥野小山	一四	岳玉淵	一七	鎌田應昇	一九
榎並貞因	一一	大島梅嶼	一四	好花堂野亭	一七	河太郎	二〇
榎並貞富	一一	大谷廣右衛門	一五	海北若冲	一七	狩野宗朴	二〇
榎並貞風	一一	大谷友右衛門	一六	片岡子蘭	一七	珂然	二〇
[一〇]		[一〇]		加藤良齋	一八	兼道	二〇
大岡春下	一二	萱野重實	一六	鎌田環齋	一八	兼光	二〇
大西閑齋	一二	河野恕齋	一六	兼康百濟	一八	勝諺藏	二〇
大口如翁	一二	桂田龍山	一六	鎌田巖松	一八	片岡わやめ	二〇
鬼貫	一二	勘太郎	一六	加藤圓齋	一八	片岡我童	二〇
奥田尙齋	一二	加島白羽	一六	倭天齋國雄	一八	片岡仁左衛門	二〇
大江元定	一二	柏木宗石	一六	川上靜庵	一八	香川南洋	二〇
大岡春川	一三	夏嶽山人	一六	上月專庵	一八	桂文枝	二〇
大口樵翁	一四	川井立牧	一六	金谷三石	一八	桂文團治	二〇
大江元春	一四	鼎春嶽	一七	金谷興詩	一九	勝桂助	二〇

[一〇]		木津宗全	二三	玄鳥舍株丸	二七	獄門五兵衛	二九
北向道陳	二三	菊峰	二三	繼我庵市丸	二七	五岳	二九
菊川道山	二三	菊澤檢校	二四	喧嘩屋五郎	二七	五代友厚	二九
其日庵尺艾	二三	[一〇]		月笠	二七	小柳平助	二九
玉雲齋貞右	二三	倉鉢魯石	二五	[一〇]		[一〇]	
北山壽庵	二三	花月庵	二五	五竹庵木仙	二八	澤井穿石	三〇
金鳳堂東隄	二三	熊谷直好	二五	五井蘭州	二八	佐野龍雲	三〇
北山七僧	二三	黒澤翁滿	二五	小柴景山	二八	佐々木泉明	三〇
鬼粒亭力丸	二三	觀山	二五	五井持軒	二八	佐々木志津磨	三〇
紀海音	二三	熊次郎	二五	江月庵	二八	佐藤魚丸	三〇
菊川	二三	國吉	二五	五鳥つう	二八	些庵月居	三〇
近路行者	二三	國貞	二五	小杉平右衛門	二八	佐々木魯菴	三〇
木戸由巳	二三	櫛橋榮春齋	二六	後藤兼山	二八	佐藤魚大	三〇
木村片石	二三	[一〇]		壺中庵梅千丸	二九	阪新藏	三〇
木村石居	二三	契冲阿闍梨	二七	小嶋彤山	二九	三斗庵古樂	三一
岸田素屋	二三	蕪菽堂世肅	二七	後藤松陰	二九	齋藤鑾江	三一
吟石	二三	月下庵廉山	二七	小春治兵衛	二九	阪本鼎齋	三一
木下蘆洲	二三	桂果亭幽山	二七	衣川長秋	二九	阪本葵園	三一

澤村國太郎	三一	司馬芝叟	三四	不知火諸右衛門	三六	曾谷讀騷	三九
佐渡島長五郎	三一	松好齋	三四	尙古齋	三六	藪平三	三九
齋藤安藝守	三一	篠崎小竹	三四	〔す〕			
澤村宗十郎	三一	篠崎竹陰	三四	墨江武禪	三七	〔九〕	
佐野川市松	三一	如東亭栗洞	三四	菅甘谷	三七	橋守國	四〇
定重	三一	如雲舍紫笛	三四	墨江敬所	三七	橋守行	四〇
佐々木忠連	三一	部關月	三四	須賀蘭林齋	三七	田中鳴門	四〇
〔一〕		部關牛	三五	菅沼東郭	三七	高良陶齋	四〇
椎本才磨	三三	升六	三五	菅松峰	三七	多田宗掬	四〇
下河邊長流	三三	衆鍙	三五	鈴木寛祐	三七	武橋鳩梁	四〇
澁井太室	三三	舍羅	三五	末吉村長	三七	大黒庵奇淵	四〇
秋聲館鳥窓	三三	城宗信	三五	〔七〕		竹村雪啓	四〇
十萬堂來山	三三	心齋	三五	千利休	三八	橋保國	四〇
十南齋茶雷	三三	清水理兵衛	三五	仙果亭嘉栗	三八	竹田出雲	四一
十南齋茶裡	三三	島田淇竹	三五	聖應阿闍梨	三八	辰岡萬作	四一
十歸庵華笠	三三	實川延三郎	三五	井眉菴	三八	竹本築後	四一
蛇玉高子明	三三	實川額十郎	三六	雪操	三八	竹田近江	四一
篠崎三島	三四	之道	三六	關南頼	三八	竹原澄水	四一

武邑松軒	四一	高田未白	四三	竹本播磨太夫	四五	〔七〕	
橋守國	四一	高橋殘夢	四四	竹本政太夫	四五	近松徳叟	四八
武野紹鷗	四一	瀧田大立	四四	竹本君太夫	四五	長友松	四八
多田宗掬	四二	龍木勘藏	四四	竹本葉太夫	四六	近松門左衛門	四八
谷川龍山	四二	田邊五郎兵衛	四四	竹本内匠太夫	四六	近松半二	四八
竹内確齋	四二	谷風市郎右衛門	四四	竹本長尾太夫	四六	柿園主人	四八
竹田小出雲	四二	玉手棠洲	四四	竹本筆太夫	四六	長洲	四八
高安莊次郎	四二	玉手梅洲	四四	竹本中太夫	四六	頂譽上人	四八
多賀子健	四二	玉手菊洲	四四	竹本組太夫	四六	〔二〕	
田中秋亭	四二	竹本染太夫	四四	竹本染太夫	四六	月岡雪鼎	四九
高田七郎兵衛	四二	竹本咲太夫	四四	竹本大隅太夫	四六	鶴澤探山	四九
桃李園栗窓	四二	竹本彌太夫	四五	竹本山城椽	四六	津田越前	四九
武田篤之進	四三	竹本筆太夫	四五	高橋多一郎	四六	鶴廼屋乎佐九	四九
只丸	四三	竹本咲太夫	四五	竹本住太夫	四六	都賀大江	四九
高見照陽	四三	竹本春太夫	四五	竹本長門太夫	四七	筒井尙堂	四九
田能村竹田	四三	竹本梶太夫	四五	田部苔園	四七	土屋權兵衛	四九
竹本播磨少椽	四三	竹本住太夫	四五	谷口養安	四七	鶴澤文藏	四九
田中君安	四三	竹本越前大椽	四五	竹澤彌七	四七	津田助直	四九

津田助廣	四九	富島瑞峰	五二	豐竹鞞太夫	五四	中井藍江	五七
津田貞	四九	鳥山松岳	五二	豐竹巴太夫	五四	永井如瓶	五七
津山檢校	五〇	鳥山輔寬	五二	豐澤園瑠	五四	中井蕉園	五七
鶴澤燕三	五〇	鳥山輔門	五二	豐竹鞞太夫	五四	長山孔眞	五七
鶴澤高麗造	五〇	土肥積翠堂	五二	豐竹湊太夫	五四	南嶺子	五七
鶴澤清六	五〇	豐竹越前	五二	豐竹此太夫	五四	並木宗助	五七
[七]		戶田玄泉堂	五三	[な]		並木丈助	五八
適水居士	五一	富永仲基	五三	奈河一洗	五六	並木永助	五八
鐵格子波丸	五一	十時梅谷	五三	中井竹山	五六	長山孔直	五八
鐵眼禪師	五一	鳥飼宗慶	五三	中井履軒	五六	並木五瓶	五八
徹山居士	五一	友淵宣卿	五三	並木正三	五六	中村芝翫	五八
寺井養拙	五一	豐竹麓太夫	五三	中井方明	五六	並河樺翁	五八
條果亭栗標	五一	篤扇	五三	長雄旭雲	五六	奈河七五三助	五九
天王寺長左衛門	五一	豐竹若太夫	五三	中井抽園	五六	奈河晴助	五九
[と]		豐澤廣助	五四	中村白翁	五六	中村富十郎	五九
十時梅崖	五二	豐竹八重太夫	五四	長澤蘆雪	五七	中村のしほ	五九
戶田旭山	五二	豐澤廣助	五四	中江岷山	五七	中村歌右衛門	五九
獨嘯庵	五二	豐竹駒太夫	五四	中井登庵	五七	中村翫雀	五九

中村善樂	六〇	耳鳥齋	六二	阪東由輔	六六	濱田杏堂	六八
中村芝猿	六〇	錦文流	六二	八千房屋鳥	六六	長谷川紀隆	六八
中村百花	六〇	西澤一鳳	六二	林淡齋	六六	林文坡	六八
中井芳瀧	六〇	西澤眞雛	六三	間長涯	六六	半時庵淡々	六八
内藤積雨	六〇	新島襄	六三	早野仰齋	六六	放雀庵長齋	六八
中谷願山	六〇	二東生梯	六三	早野反求	六六	阪東彦三郎	六八
中野梧一	六〇	西川伊三郎	六三	林一鳥	六六	阪東壽太郎	六八
中井柳樓	六〇	西島是平	六三	橋本宗吉	六六	春田古處	六八
中村雀右衛門	六〇	[ぬ]		橋本貞元	六七	長谷川眞信	六九
中村歌六	六〇	[ね]		林幽甫	六七	長谷川小信	六九
中井竹庵	六一	根津四郎右衛門	六四	橋本稻彦	六七	林基春	六九
中村玉七	六一	熱の四郎兵衛	六四	林幽篤	六七	白山梅弟	六九
中井養僊	六一	[の]		八千房	六七	放駒長吉	六九
[り]		後鐵格子獨醉	六五	春田横塘	六七	濱漁柳	六九
西山宗因	六二	野口道悅	六五	林响庵	六七	阪東壽太郎	六九
西澤一風	六二	野口震齋	六五	芭蕉堂	六七	伴存誠	六九
新山退輔	六二	[は]		萩原廣道	六七	春名柳窓	六九
丹羽桃溪	六二	忘筌堂竹探	六六	濱松歌國	六七	濱和助	七〇

藤原家隆	七三	本多忠朝	七七	三村昆山	八〇
古林正桂	七三	布袋市右衛門	七七	三宅萬年	八〇
藤澤東畝	七三	眞瀨中州	七八	水野南北	八〇
藤井藍田	七三	前川有隣	七八	水之谷雄琴	八〇
物外	七三	松岡長助	七八	三日坊雛丸	八〇
藤田恭庵	七四	松浦大麓	七八	宮本君山	八〇
瓢六	七五	前川由平	七八	水走平岡	八〇
堀 衆樂	七六	松花屋錦之	七八	三好松洛	八〇
堀田自諾	七六	松井羅州	七八	三浦道齋	八一
牡丹花宵柏	七六	松本觀山	七八	三瓶信庵	八一
保科加一郎	七六	政田李角	七八	三榊大五郎	八一
穗積以貫	七六	籬	七八	湊由良右衛門	八一
細合斗南	七六	松川半山	七九	村上景吉	八二
牧亭笛丸	七六	前川虛舟	七九	村田嘉言	八二
本莊宗敬	七六	眞子芳庵	七九	無相	八二
鳳 潭	七六	三好正慶	八〇	村井伊兵衛	八二
				村田春門	八二

陸奥宗光	八二	山中松年	八六	泥屋今庵	八九	渡邊長城	九五
陸奥自得翁	八二	山本如春齋	八六	吉澤わやめ	八九	椀 久	九五
〔め〕		矢頭長助	八六	淀 君	九〇	鷺尾八橋	九五
〔も〕		山本大龍	八六	頼 春水	九一	〔る〕	
森川竹憲	八四	山口日向	八六	樂郊兄臧宗	九一	井原西鶴	九六
森 周峰	八四	山中道徳	八六	〔り〕		井邦圭屑	九六
森 祖仙	八四	八木巽處	八六	栗枝亭鬼卯	九二	井上國貞	九六
森 徹山	八四	楊棗樓楫友	八六	栗柯亭木端	九二	井狩雪溪	九六
森 晋三	八四	山本復齋	八七	龍溪禪師	九二	井上鶴洲	九六
森川安範	八四	安賣屋善右衛門	八七	流光齋如圭	九二	〔ろ〕	
森川兎毛	八四	〔ゆ〕		柳齋重春	九二	越鳥齋	九七
森 春溪	八四	由良箕山	八八	龍 淵	九二	〔を〕	
森 陽信	八四	由縁齋貞柳	八八	〔る〕		尾崎散木	九八
本木昌造	八五	夕 霧	八八	留主退藏	九三	越智高州	九八
森田明矩	八五	〔よ〕		〔れ〕		岡田米山人	九八
〔や〕		依田新八郎	八九	〔ろ〕		岡 琴岳	九八
山内南州	八六	吉村周山	八九			小野好純	九八
八日庵萬和	八六	吉川松谷	八九				

尾崎雅嘉	九八
小野紹連	九八
岡 公翼	九八
岡 熊岳	九八
岡島龍湖	九九
岡田玉山	九九
尾形雪山	九九
岡田半江	九九
岡本文彌	九九
小川吉太郎	九九
尾上多見藏	九九
小山養快	一〇〇
岡 雲臺	一〇〇

浪華名家墓所記 (草稿)

〔あ〕



●淺生庵野坡 (俳諧師) 元文五年正月三日歿 年七十

野坡は越前の人浪花および西國に住す、俳諧の名家なり

○墓面に淺生翁之碣と記し、裏に銘を刻す、また小橋寺町寶國寺本堂南側北向にもあり、表に蕪門第二世 高津野々翁淺生葺壽元居士と記し右側に元文五庚申星正月三日行年七十八才卒、左側に孝子竹田氏嫡政女、門人等建之とありて、其傍に黃華庵南齡の建てし、蕪門十哲野坡翁墓と刻せし墓標あり

天王寺権寺 藥師堂

●淺山蘆洲 (畫工) 文政三年九月五日歿 年四十餘

浪花の人、俗稱布屋忠三郎、須賀蘭林齋に從ひ畫法を學び、淺山蘭英齋と號す後に狂畫堂蘆洲と更じ、浮世繪を専らとし名を得たり、法號釋順清

遊行寺 圓成院

●麻田剛立 (醫家) 寛政十一年五月廿二日歿 年六十六

口繩坂 淨春寺



姓は綾部氏、名は妥彰、字は剛立天文學に委し、墓碑に中井蕉園の文を刻す

●有賀長因 (歌人) 安永七年閏七月五日歿 高津東 本覺寺 年六十七

長伯の男にして和歌の名家なり、敬義齋と號し浪花に住す

●有賀長收 (歌人) 文政元年五月七日歿 高津 正法寺 年六十三

長伯の孫和歌を善くす

●青木宗鳳 (茶家) 明和二年十二月七日歿 下寺町 宗念寺 年七十六

紫雪庵水滸一統子と號す、薙髮して凡鳥と名つけ浪花に住す

●青木宗鳳 (茶家) 寛政五年七月十九日歿 下寺町 宗念寺 年六十四

初代青木宗鳳の男、初の名は舒新柳軒又故温齋と號す、則二代の青木氏なり

●青木宗鳳 (茶家) 文政十一年九月十九日歿 下寺町 宗念寺 年五十六

習々齋と號す

●淡太郎 文化十年十一月卅日歿 高津 正法寺 年五十四

天王寺西廻廊の内に木像を安置す、天王寺再建の世話方の棟梁にして世に名高し、浪花島の内白銀町淡路屋太郎兵衛と號す

●足立安正

字は伊介、榮庵と號す、浪花に住す、明和

●淺野高三 (書家)

●東竹堂 (書家) 元文 年月 日歿 天王寺 年

平安の人、浪花に住す、名は隆光、志津摩の門人、壽醉翁又流鶯軒と號す、法名澄入居士

●曉晴翁 (戯作家) 安政七年十二月十九日歿 西成郡 正覺寺 年六十八

雜録の著述家にして其名世に鳴る、初鐘成と號し後晴翁と號す、一に鷄鳴舎或は未曾志留坊一禪と戲號す、著述の書多く世に行はる、後年難波鐵眼前に住す終に舊地福井町にて歿す、西國三十三所名所圖會、東山名所圖會、攝津名所圖

會大成、淡路名所圖會、小豆島名所圖會其餘枚舉するに違わらず

●曉鐘成 (戯作家)

安政六年四月歿  
年四十三

天満四寺町 妙香院

二世曉鐘成は初安藤芦友と號す、戯作を好んで晴翁の門人となり、後鐘成と改號す、藥種を業とす故に半醫齋と號す、江戸堀五丁目に住す

●天野屋利兵衛 (義人)

享保十二年正月廿七日歿  
年六十六

名は直之、浪花平野町の人、米問屋を業とす、頗る義氣に富む、曾て赤穂義士の復讐に與り、其名著る、後年洛外岡崎村に退隱し、名を松永土齋と改む、法號法正院土齋日可居士

○有賀長伯 (歌人)

元文二年六月二日歿  
年七十七

高津東 正法寺

敬齋と號し、平間重雅の門人、和歌に名高し

○嵐三右衛門 (俳優)

文政九年十一月十五日歿  
年四十四

中寺町 藥王寺

二代目嵐小六男初名八十次郎、文政元年四代目小六を嗣ぎ、同八年更に七代目

三右衛門を嗣ぐ、俳名を紫朝といふ

○嵐小六 (俳優)

天明六年七月廿六日歿  
年七十七

谷町一丁目 法妙寺

五代目三右衛門男、幼名岩次郎、六代目三右衛門を嗣ぎ更に小六と改名す、俳名を杉鳥といふ

○嵐小六 (俳優)

寛政八年三月廿九日歿  
年五十六

谷町一丁目 法妙寺

元祖小六の男、初名雛助後二代目小六と改名す、俳名を眠獅又眠子といふ

○嵐三五郎 (俳優)

天保八年六月廿九日歿  
年三十四

下寺町 源聖寺

三代目三五郎の男、幼名三四郎、後四代目三五郎を嗣ぐ、俳名を雷子といふ

○淺尾與六 (俳優)

嘉永四年十二月九日歿  
年五十五

中寺町 本行寺

初代爲十郎門弟、幼名丹平、後與六と改名す、家號淺田屋、俳名を一甫といふ

○嵐吉三郎 (俳優)

安永九年十二月六日歿  
年四十四

寺町 法藏院

會大成、淡路名所圖會、小豆島名所圖會其餘枚舉するに違わらず

●曉鐘成 (戯作家)

安政六年四月歿  
年四十三

・天満四寺町 妙香院

二世曉鐘成は初安藤芦友と號す、戯作を好んで晴翁の門人となり、後鐘成と改號す、藥種を業とす故に半醫齋と號す、江戸堀五丁目に住す

●天野屋利兵衛 (義人)

享保十二年正月廿七日歿  
年六十六

名は直之、浪花平野町の人、米問屋を業とす、頗る義氣に富む、曾て赤穂義士の復讐に與り、其名著る、後年洛外岡崎村に退隱し、名を松永土齋と改む、法號法正院土齋日可居士

○有賀長伯 (歌人)

元文二年六月二日歿  
年七十七

高津東 正法寺

敬齋と號し、平間重雅の門人、和歌に名高し

○嵐三右衛門 (俳優)

文政九年十一月十五日歿  
年四十四

中寺町 藥王寺

二代目嵐小六男初名八十次郎、文政元年四代目小六を嗣ぎ、同八年更に七代目

三右衛門を嗣ぐ、俳名を紫朝といふ

○嵐小六 (俳優)

天明六年七月廿六日歿  
年七十七

谷町一丁目 法妙寺

五代目三右衛門男、幼名岩次郎、六代目三右衛門を嗣ぎ更に小六と改名す、俳名を杉鳥といふ

○嵐小六 (俳優)

寛政八年三月廿九日歿  
年五十六

谷町一丁目 法妙寺

元祖小六の男、初名雛助後二代目小六と改名す、俳名を眠獅又眠子といふ

○嵐三五郎 (俳優)

天保八年六月廿九日歿  
年三十四

下寺町 源聖寺

三代目三五郎の男、幼名三四郎、後四代目三五郎を嗣ぐ、俳名を雷子といふ

○浅尾與六 (俳優)

嘉永四年十二月九日歿  
年五十五

中寺町 本行寺

初代爲十郎門弟、幼名丹平、後與六と改名す、家號淺田屋、俳名を一甫といふ

○嵐吉三郎 (俳優)

安永九年十二月六日歿  
年四十四

寺町 法藏院

嵐勘四郎門弟、家號を岡島屋、俳名を里環又李環と號す

○嵐吉三郎 (俳優)

文政四年九月廿七日歿  
年五十六

寺町 法藏院

初代吉三郎男、幼名吉松、後二代目吉三郎となる、俳名を李冠又は璃寛と云ふ

○嵐猪三郎 (俳優)

文政八年五月十三日歿  
年六十

寺町 法藏院

初代吉三郎男、俳名冠子又環子と稱す

○嵐璃寛 (俳優)

天保八年六月十三日歿  
年五十

朝 常源寺

嵐猪三郎門弟、徳三郎、後二代目璃寛を嗣ぐ、家號伊丹屋、俳名を璃瑠といふ

○嵐璃寛 (俳優)

文久三年四月廿一日歿  
年五十二

坂町 法善寺

始め壽三郎、家號葉村屋、巖獅と號す、三代目璃寛を嗣ぐ

○茜屋半七

元祿八年十二月七日歿

法善寺

西成郡難波村の墓地に於て歌妓美濃屋の三勝と情死せしを以て其名著る、半七

は五條新町の豆腐業者にして、淨瑠璃「艶姿女舞衣」に委し、法善寺中にある碑には南無阿彌陀佛の名號と、外に梅と桐との紋を彫付けありといふ、尙五條新町極樂寺及び千日寺、此外東京等にもありといふ

○嵐三七郎 (俳優)

天保八年六月二十九日歿

下寺町 遊行寺

四代目三七郎、法號長山眠清信士

○嵐里環 (俳優)

安永九年十二月六日歿

下寺町 遊行寺

○嵐鯉昇 (俳優)

明治三十五年二月十三日歿

淺坂 一心寺

○綾瀬川 (力士)

淺坂 一心寺

○朝日山四郎右衛門 (力士)

天王寺

九代目朝日山、伯州の産、墓石に明治三十三年三月十八日十一代目朝日山香松建之とあり

○朝日山四郎右衛門(力士)  
十一代目朝日山、下總の産

天王寺

〔い〕

●一本亭芙蓉(狂歌師)

天明三年正月廿六日歿  
年六十三

新清水坂下

松濤氏、初名は栗里後芙蓉花と改む、狂歌を善す

●稻津祇空(俳諧師)

享保十八年四月廿三日歿  
年七十一

口繩坂東 太平寺

稻津氏は浪花の人、はじめ青流と號す、宗祇法師の風流を慕ひ、落髮して祇空と號し諸國を經廻す、後あらためて敬雨と稱す、俳師一家の人なり

●稻垣休叟(茶家)

文政二年七月廿三日歿  
年五十

小橋寺町 大應寺

浪花の人にして茶道の名家なり、竹浪庵と號し、又猷々齋松竹主人等の號あり

●一井鳳梧(儒家)

享保十六年七月廿五日歿  
年百十六

高津 圓妙寺

名は光宣、敬齋と號す、俗稱桐助、出雲の人、林道春の門人なり、浪花に住し教授す、門弟一千二百人有しと云ふ、凡浪花に儒學を講ずる事、一井氏を始とす、○墓碑に中野敬齋の撰文を刻す

●入江昌喜 (國學家)

寛政十二年八月十二日歿  
年七十九

小橋 梅松院

浪花の人、俗稱長助國學の名家なり、著述の書竹取物語補注、和田津海、青陽唱話、久保之取蛇美、異名分類抄、榮花採葉、葦手考、仁徳天皇傳、本朝地名考、萬葉補闕等あり、歿年一に七十八と云ふ、墓碑の外別に墓誌銘あり、文は頼春水の撰、書は篠崎三島の筆なり

●一睡亭海棠

享和元年八月廿七日歿

清水四坂ノ下

●泉 必 東 (書家)

明和元年十二月十日歿

生玉南 菩提寺

蒙所の門人なり

●一本亭魚鱗 (狂歌師)

文政七年十二月廿五日歿

清水四坂ノ下

○墓面に一本亭魚鱗墓と記し傍に「何ひとつわがものもなさかりの世にかたみを残し置くは言の葉」といふ辭世の一首を刻しありといふ

●一峰齋馬圓 (畫工)

文化七八年三月歿

元東武の人、葛飾北齋門人にして始馬達と號し、浪花に來り大岡喜藤治の養子となり、龜山町後藤屋敷に住す、後改めて馬圓といふ、俗稱始め由平、後藤二と更じ、小説刻板の密畫多し

●石田玉山 (畫工)

初め玉峯、法橋玉山の門人、後に玉山と改む、印本の密畫に達す、清正眞傳記不知火草紙、葦茅草紙、長柄長者、黃鳥墳其餘許多畫かけり

●一時軒惟中 (國學家)

元禄五年八月十日歿  
年五十四

岡西氏、書古風を好み、俳諧を善す

●五十川金雪 (商人)

萬延二年三月歿

下寺町 大蓮寺

俗稱平野屋七兵衛、商家、中の島に住す、詩文に達し文人畫家に交りて風流に遊ぶ事數年

●一樹亭朶雲 (狂歌師)

●一文舎錢丸 (狂歌師)

河丸の門人

●石津亮澄 (國學家)

○天保十一年二月九日歿  
○年六十二

○東高津 圓珠庵

字並輔、米居、又富草屋と號す

●佚 山 (僧)

字默隱常足と號す、初め森修來と稱して蒙所の門人なり、専ら篆文を書す、又畫を能せり、浪花に住す、古篆論語を著す、天王寺東門見友寺に住し、後京師に移て卒す

○出田卉園 (書家)

天保元年六月十三日歿  
年六十七

幼名縫殿助後主税と稱し晩年三千輔と改む、浪花の人、書を岳玉淵に學び名家の聞へあり

○今泉芝軒 (儒家)

明治六年一月三十一日歿  
年三十九

天満寺町 天徳寺

名は麟、字は聖祥、芝軒又立志齋と號す、俗稱麟藏豊後佐伯の人、江戸に出で昌平塾に入る、文久元年大阪に來り私塾を開く、墓は自然石にして、今泉芝軒先生墓と刻す、村田海石の建つる處なりといふ

○市川團十郎 (俳優)

嘉永七年八月六日歿  
年三十二

逢阪 一心寺

七代目團十郎の男、幼名團栗、夜雨庵又三升と號す、八代目を嗣ぐ、嘉永七寅年八月六日夜、大阪島の内植木屋久兵衛方にて自殺す、法號淨蓮信士

○市川團藏 (俳優)

文化五年十月五日歿  
年六十四

中寺町 明圓寺

三代目團藏の門人、初め友藏といふ、安永二年冬師家を嗣ぎ四代目となる、俳優名を市紅といふ、時人稱して劇界中興の名人となす、法號釋了西

○市川團藏 (俳優)

弘化二年六月六日歿  
年五十八

中寺町 明圓寺

初め市川團十郎の門人森之助といふ、後四代目の養子となり團三郎と改名す、文政五年春五代目を嗣ぎて團藏と稱す、時人呼ぶにシテ團藏の異名を以てす、俳優市紅、法號釋了團、辭世なくむしを我道つれや秋の山

○市川團藏 (俳優)

明治四年十月廿二日歿  
年七十二

中寺町 明圓寺

幼名照世、市川荒五郎の男、後七代目團十郎の弟と成り文政五年九歳と改め、嘉永五年六代目團藏を嗣ぐ、俳名を市紅、市紅庵、又三猿といふ

○市川鰻十郎 (俳優)

安政五年十月十九日歿  
年五十

下寺町 光明寺

初名松島巳之助、嘉永四年四代目鰻十郎と改名す、俳名を眼玉といふ

○石井宇右衛門

延寶元年十月十八日歿

谷町寺町 大仙寺

丹波篠山の城主青山宗俊の家臣、後主に従つて大阪に來り、槍術家赤堀源五右衛門の爲に暗殺せらる、彼の復讐奇談龜山話は、其源を茲に發すとか、墓面には、歸眞、性海以得居士靈位と刻して歿年月を左右に割り、側面には、郷關及び通稱を記す

○飯岡澹寧 (儒家)

寛政元年十一月八日歿  
年七十三

小橋 龍淵寺

名は孝欽、字は徳安、澹寧は其別號にして、専ら飯岡義齋をもて行はれたり、三女あり、長は天し次女は頼春水に嫁して山陽を産み、三女は尾藤二洲の妻と

なる

○齋部道足 (歌人)

梅舊院

陸奥會津の人、幼にして大阪に來り住す、和歌を善す、墓面には隸書にて齋部宿禰道足墓と題し、行狀を刻す

○岩永磐玄 (外科醫)

享保十四年七月二十一日歿  
年不詳

齋藤町 淨光寺

長崎の人なり、正徳の頃大阪に來り、江戸堀南側犬齋橋西に住し、南蠻流の外科醫を業とす

○岩永玄昌 (外科醫)

享保十九年八月六日歿  
年四十四(或曰四十五)

上町 正覺寺

岩永磐玄の弟なり、享保初年の頃大阪に來り、北久太郎町渡部筋西に住し、兄と同じく外科醫を業とす、子孫明治に至るまで連綿たり、法號玄昌堂嫩桂居士

○岩永昌因 (針術醫)

安永四年七月九日歿  
年四十八

中寺町 法雲寺

岩永玄昌の二男なり、初め叔父葛野意安法眼の養子となる、後離縁本氏に復し



○市川團藏 (俳優)

明治四年十月廿二日歿  
年七十二

中寺町 明圓寺

幼名照世、市川荒五郎の男、後七代目團十郎の弟と成り文政五年九藏と改め、  
嘉永五年六代目團藏を嗣ぐ、俳名を市紅、市紅庵、又三猿といふ

○市川鍛十郎 (俳優)

安政五年十月十九日歿  
年五十

下寺町 光明寺

初名松島巳之助、嘉永四年四代目鍛十郎と改名す、俳名を眼玉といふ

○石井宇右衛門

延寶元年十月十八日歿

谷町寺町 大仙寺

丹波篠山の城主青山宗俊の家臣、後主に従つて大阪に來り、槍術家赤堀源五右衛門の爲に暗殺せらる、彼の復讐奇談龜山話は、其源を茲に發すとか、墓面には、歸眞、性海以得居士靈位と刻して歿年月を左右に割り、側面には、郷關及び通稱を記す

○飯岡澹寧 (儒家)

寛政元年十一月八日歿  
年七十三

小橋 龍淵寺

名は孝欽、字は徳安、澹寧は其別號にして、専ら飯岡義齋をもて行はれたり、  
三女あり、長は天し次女は頼春水に嫁して山陽を産み、三女は尾藤二洲の妻と

なる

○齋部道足 (歌人)

梅舊院

陸奥會津の人、幼にして大阪に來り住す、和歌を善す、墓面には隸書にて齋部宿禰道足墓と題し、行狀を刻す

○岩永磐玄 (外科醫)

享保十四年七月二十一日歿  
年不詳

齋藤町 淨光寺

長崎の人なり、正徳の頃大阪に來り、江戸堀南側犬齋橋西に住し、南蠻流の外科醫を業とす

○岩永玄昌 (外科醫)

享保十九年八月六日歿  
年四十四(或曰四十五)

上町 正覺寺

岩永磐玄の弟なり、享保初年の頃大阪に來り、北久太郎町渡部筋西に住し、兄と同じく外科醫を業とす、子孫明治に至るまで連綿たり、法號玄昌堂嫩桂居士

○岩永昌因 (針術醫)

安永四年七月九日歿  
年四十八

中寺町 法雲寺

岩永玄昌の二男なり、初め叔父葛野意安法眼の養子となる、後離縁本氏に復し

針術醫を以て京極宮侍醫となる、宮薨去の後致仕して大阪に歸り、堂島に住して針術醫を業とす、法號玄祐居士

○岩永隆恭 (外科醫)

文化九年四月二十六日歿  
年八十

中寺町 法雲寺

岩永玄昌の三男にして道房と稱す、父の死跡を継ぎ外科醫を業とし、瓦町一丁目に住す、蘭法の名醫野口道悦(友山)の門人なり、法號獲龍院大源道房居士

○岩永榮安 (外科醫)

寛政八年四月十四日歿  
年三十四

中寺町 法雲寺

岩永隆恭の長男にして定房と稱す、家跡を継ぎ同じく外科醫を業とす、子なきを以て弟文恭に家を譲る、法號法林院戒雲源定居士

○岩永文恭 (外科醫)

文政四年十月十日歿  
年四十八

中寺町 法雲寺

岩永隆恭の二男にして時房と稱す、初め醫を以て日光准后宮京都御隱殿に仕ふ後兄榮安嗣子なきにより致仕して大阪に歸り、兄榮安の猶子となりて家跡を継ぎ、南本町に住す、文恭の醫術海内に名を揚げ、入門者二百餘名ありて大阪外科醫中の長なりしと云ふ、法號清雲院開山時房居士

○岩永文楨 (外科醫)

慶應二年六月十五日歿  
年六十五

中寺町 法雲寺

京都の人、文恭の女婿となり之房と稱し別に菴齋又は鍾奇齋と號す、養父の死跡を継ぎ、道修町心齋橋筋東に住し、本業の傍ら山本亡羊の門に入つて本草學を修め、同志者と共に集芳社を設けて毎年物産會を開けり、自記の隨筆雜記の類數百冊現存せり、又好んで人形を愛し和漢の古人形會を開催す(其記集古會誌己酉卷五に出づ) 法號養德院之房 齋士

○岩永文卿 (外科醫)

明治三十六年二月十三日歿  
年六十八

長柄 共同墓地

岩永文楨の長子にして義房と稱す、父の家跡を継ぎしも嗣子文房栗齋夭折し、今は二女の實子其家を継ぎて現存し代々の家號玄昌堂を襲へり、法號正徳院義房棟齋居士

○稻野年恒 (畫工)

明治四十年五月二十七日歿  
年五十

谷町 太平寺

金澤の人、本姓武部、通稱孝之、後稻野家に養はる、大蘇芳年の門に入つて畫法を學び浮世繪師となる

〔う〕

●浦川富夫 (俳諧師)

明和四年五月十日歿

八丁目寺町 聖祐寺

號清得舎

●浦西可亭 (書家)

文化二年十二月十日歿  
年六十九

北長柄葬地

●浦川公左 (畫工)

上田公長門人、浪花島の内周防町に住す、播磨屋佐兵衛

●上田秋成 (國學家)

文化六年歿  
年七十八

京東山 南禪寺松林 西教寺

浪花の人、曾根崎新地に住す、俗稱東作後に餘齋と號す又無腸居士又鶉之屋、  
剪枝畸人等の戲號あり、和漢の學に達し、醫を業とす、和歌俳諧を善し、且煎  
茶を好み、著述の書煎茶清風瑣言、戲作は西瓜物語、雨月物語、聞耳世間猿  
癡物語此餘種々あり、晩年京師に於て歿す

●上田公長 (畫工)

字有秋、月溪門人實は景文に畫法を受る、南久太郎町に住す

●上田公圭 (畫工)

安政七年九月十三日歿

公長の男

●雨香園柳浪 (戲作家)

浪花南本街に住す、馬田昌調と號す、醫道を業とす、元九州長崎の人にして、畫師玉山に朝鮮人の圖を寫し與へし人なり、司馬芝叟の遺話朝貌を小説に著述し且不知火草紙等の戲作あり

○魚住荊石 (儒家)

明治十三年八月六日歿  
年八十二

妙徳寺

名は毅、字は菟浦、荊石又鷗波聽山と號す、越後古志郡の人、大阪に住す、墓は自然石にして長三洲の篆額、藤澤南岳の撰文を刻し、墓面に荊石先生之碑と記す、書は瀧醉月の筆なり

○梅川忠兵衛 (情死者)

寶永七年二月五日歿  
年

寺町八丁目 傳光寺

墓所は本堂脇の小丘にあり、一は梅室妙覺信女、傍に俗名槌屋抱梅川、一は妙法頓覺利達、傍に俗名龜屋忠兵衛、寶永七年二月五日とあり、其傳は戲曲「戀飛脚大和往來」に委し

○上田耕冲 (畫家)

明治四十四年一月二十一日歿  
年九十三

長柄墓地

父は圓山派の畫家上田耕夫、文政二年京都に生る、幼時大阪に來り長山孔寅の門人となり後一家を成す、息耕甫家を繼げり

〔二〕

●江田世恭 (國學家)

寛政七年三月三日歿

天王寺東 清壽院

江田氏は浪花の人、俗稱富田屋八郎右衛門といふ、國學にくわしく又書畫の鑒定をよくす、世に富八さわめといふ、著述の書古葉略校正五月雨日記考等あり

○榎並貞因 (俳諧師)

元禄十三年三月廿三日歿

八丁目寺町 寶樹寺

通稱鯛屋善右衛門、長閑堂と號す、浪花の人、狂歌師由縁齋貞柳の父なり、安原貞室の門人、山城大椽に任す

○榎並貞富 (俳諧師)

正徳二年五月六日歿

八丁目寺町 寶樹寺

長閑堂貞因の従弟、通稱鯛屋清左衛門といふ、花實庵と號す

○榎並貞風 (俳諧師)

明和七年二月八日歿

八丁目寺町 寶樹寺

紀海音の男、俗稱忠七、魚周堂と號す、道頓堀太左衛門橋筋八幡前に住す

〔お〕

●大岡春卜 (畫工)

寶曆十三年六月十九日歿  
年八十四

下寺町 光明寺

名は愛薫、雀叱と號す、狩野氏の法を學て常の師なく、畫名時に高し、實に近世の名手なり、法眼の位に叙す、浪花松江町に住せり

●大西閑齋 (茶家)

享保二年七月七日歿  
年七十三

八丁目寺町 妙中寺

片桐石見守貞昌の家臣にして瓢々庵宗順と號す、貞昌卒去の後退身して浪花に住す、凡浪花において石州流を唱ふる茶道の始祖といふべし

●大口如翁 (茶家)

安永七年閏七月十八日歿

八丁目寺町 妙中寺

浪花の人、大口樵翁の男にして茶道の名家なり、名は保教、芳流庵と號す

●鬼貫 (俳諧師)

元文三年八月二日歿  
年七十八

伊丹 墨染寺

上島氏、攝州伊丹の人、權花翁、幼にして重頼の門に入て俳諧を學び、十八歳にして西山宗因の席に交はり、後一風流をおこして伊丹流の祖となる、家書數

多あり、法號仙林則翁居士、又百回忌に曲阜の立る所の句碑墨染寺にあり、浪花鶴満寺にも碑あり、近來俳人の立る處なり

●奥田尙齋 (儒家)

文化四年八月十二日歿  
年七十九

進阪 一心寺

名元繼、字は志季仙樓と號し、又拙右社と號す、播州の人浪花に住す、儒學の名家なり、著述の書左傳釋例考、增訂左傳評林、左傳捷覽、定本大學左右指象十二律考、赤城梅花記、両好餘話、清詩選、仙樓文章、滅魔燈等あり、墓面に拙古奥田府君墓と記し生前自誌の文を刻し側に歿年を記し尙孝子元純建門人高岡公龍書とあり

●大江元定 (武藝家)

寛政十一年九月廿六日歿  
年五十七

勝間葬地

●大岡春川 (畫工)

安永二年九月廿七日歿  
年五十五

下寺町 光明寺

有元氏の子なり、春卜の養子となり家を嗣ぐ名は甫政、能家法を傳ふ、法眼の位に叙す、浪花に住せり

●大口樵翁 (茶家)

明和元年十二月六日歿  
年七十六

八丁目寺町 妙中寺

名は保高、恕軒と號す、養浩齋、芳林庵、合翠子、敬持等の號あり、茶人大口閑齋の聲にして浪花の人なり、茶道において其名一時に盛なり

●大江元春 (武藝家)

大江元定門人、俗三五年、攝州大和田の人、不知卒年

天王寺

●興蒙所 (書家)

興氏、名は光鐘、字中連、俗稱新興文治、蓮池侯の臣浪花に住す、其書唐人に倣ふといへども別に一家をなす、尤篆書を善す、實に近代の能書なり、凡浪花の書風此人より一變し、此流義を學ぶ人多し、夏嶽山人、泉必東、尾崎散木、眞漁おのく此門人なり

●大江丸 (俳諧師)

文化二年三月十八日歿  
年八十八

大伴氏、舊國と稱す、浪花の人、梨太門人、歿年一に文化六年三月十八日といふ

●大枝流芳 (著述家)

浪花の人、雅遊漫録、貝盡浦之錦此餘香道の書多し

### ●大原東野

後年讚洲丸龜に移住して歿す

### ●奥野小山 (儒家)

安政五年八月廿日歿  
年五十九

西天満寺町 圓通院

儒學の名家にして詩文及び書を能す、墓面に小山奥野先生墓と記し、裏面に文を刻す

### ○大畠梅塙

安永四年五月十四日歿  
年七十三

生玉寺町 玄徳寺

俗稱治部左衛門、名は一利、字貞卿、梅塙と號す大阪の人、梁田蛻巖門人、才子なり、墓面に默翁大畠君之墓と記し、中井竹山筆の文を刻す

### ○大谷廣右衛門 (俳優)

天保十年十一月七日歿  
年四十七

蟹屋通 蓮生寺

初名坂東大五郎といひ、三代目廣次の門弟となり、四代目廣右衛門と改名す、俳名を晩風といふ

### ○大谷廣右衛門 (俳優)

安政二年九月十三日歿  
年五十四

下寺町 妙藏寺

初名萬作、四代目大谷友右衛門の門弟、後五代目廣右衛門を嗣ぐ俳名を晩風といふ

### ○大谷友右衛門 (俳優)

天保元年三月廿四日歿  
年六十三

下寺町 遊行寺

谷村楯八の門弟、初名虎藏といふ寛政七年二代目大谷友右衛門と改名、家號を明石屋、俳名を此友又金輿と稱す

### ○大谷廣右衛門 (俳優)

寛政二年九月十四日歿  
年六十七

今宮

初代大谷廣次門弟、初名國藏後三代目廣右衛門を嗣ぐ

### ○大谷友右衛門 (俳優)

下寺町 遊行寺

三代目、法號釋金使、辭世音楽の聲はあの世の初やぐら



●萱野重實 (義士)

元禄十五年正月十四日歿  
年二十八

攝州豊島郡萱野谷芝村

萱野三平重實は、攝州豊島郡萱野郷芝村の産なり、先祖より代々此郷に住す、重實十三才にして赤穂城主淺野侯に仕ふ、主君歿後孝義を全くして、終に自殺す、洞郭道義居士と法號す、天王寺町吉祥寺にも靈牌ありて菩提を吊ふ

●河野恕齋 (儒家)

安永八年二月九日歿  
年三十七

下寺町 光明寺

名は子龍、字は伯潜、鶴皇と號す、又恕齋と號す、俗稱忠右衛門、岡白駒の男なり、著述は洪範孔傳辨正、國語章註補正、韓非子解、格致餘錄、儒臣傳、京帝集等なり、○墓面には河野恕齋先生墓と記し、裏面に藪孤山の文を刻す

●桂田龍山

文化七年二月十日歿  
年六十二

小橋 天然寺

著述、照類道義、元和餘慶年中行事考等あり

●勘太郎 (義童)

延寶五年四月廿四日歿  
年十六

千日前 法善寺

勘太郎は和州の産にして浪花安土町永來屋彦兵衛に仕ふ、其主家の男子に傳き常に誠忠なり、其男子いどけなくして死す、勘太郎これを歎き、終に切腹して殉死す、實に稀代の義童なり、くわしくは碑文に見ゆたり、猶新著聞集に行狀を詳にす、○碑文の撰者は荻谷季恭及浪花蟬脱子の両氏なり

●加島白羽 (俳諧師)

寶曆五年五月十六日歿

北野 善通寺

十南齋と號す、俳師の名家なり、延享中獨吟萬句を催し其雄名浪花中に鳴る、家書數多あり

●柏木宗石 (茶家)

文政元年七月六日歿  
年八十六

野田 極樂寺

號積崑亭

●夏嶽山人 (書家)

寶曆十三年七月十一日歿

蓬阪 一心寺

姓は牧氏、名は世義、字舛庵、俗稱新與周平、蒙所の門人にして書の名家なり

●川井立牧 (儒家)

明和三年七月廿日歿  
年五十九

八丁目寺町 西光寺

號桂山

●鼎春嶽 (畫工)

文化八年八月十三日歿  
年四十六

東天滿 專念寺

名は元新、字世寶、俗稱太郎右衛門、浪花の人にして畫工の名家なり

●桂宗信 (畫工)

寛政二年八月廿七日歿  
年五十六

天王寺門 清壽院

初の名雪典左司馬と稱す、俗稱源五郎後改宗信と稱す、月岡雪鼎門人にして畫を能す、畫本三國誌は宗信の描く所なり、門人に桂三木女と稱する畫師あり、婦人にして春畫に妙を得たり

●片山北海 (儒家)

寛政二年九月廿三日歿  
年六十八

小橋中寺町 梅松院

字は孝秩、片猷と號す、俗稱忠藏、越後の人、浪花に住し儒學を教授す、詩文に工なり、性質著述を好まず、歿後門人其詩文を集めて孤雲館遺稿と號す、○墓面に北海片先生と記し裏に蕉中師の文を刻す

●加藤景範 (歌人)

寛政八年十月十日歿  
年七十七

高津 法雲寺

竹里と號す、俗稱小川屋喜太郎、浪花の人、和歌に達し書を善す、著述の書唱歌實踐集、和歌虛詞考等あり

●各務相一二 (醫家)

文化二年十月十四日歿  
年六十五

口繩坂 淨春寺

浪華西横堀に住す、整骨の醫を業とし、歸一堂と號す

●岳玉淵 (書家)

寛政十年十一月十二日歿  
年六十二

高津 禪林寺

岳氏、名は庸、字孔庸、九疑と號す、浪花の人にして書の名家なり、○碑に奥田元繼の撰文を刻す

●好花堂野亭 (戯作家)

弘化三年十一月廿四日歿  
年五十九

姓は山田氏、案山子と號す、俗稱圭藏、浪花の人、初め書家にして狂歌を善す、戯作を好んで著述す、小説雜書淨瑠璃等數多編綴せり、後剃髮して意齋といふ法號寒空意禪定門

●海北若冲 (國學家)

寶曆元年十二月十七日歿  
年七十七

小橋 無量寺

契沖の門人にして國學に達す、岑栢と號し浪花玉造の人、著述の和漢類林あり

●片岡子蘭 (儒家)

上本町

浪花釣鐘町に住し、淀屋十郎右衛門と號す、儒學に精し、安永天明中の人、不知卒年

●加藤良齋 (儒家)

名字不詳、俗稱權兵衛、攝州今津の人

●鎌田環齋 (儒家)

片山北海門人、浪花の人

●兼康百濟 (儒家)

名元愷、字孟美、浪花本町心齋橋西に住す、其先東武にあつて或侯に仕ふる時渡邊久太郎と號す、原渡邊筋久太郎町に住せしを以て號くと云

●鎌田巖松 (畫工)

安政六年七月廿八日歿  
年六十二

狙仙の門人、後に藍江に畫法を學ぶ、女に應昇あり畫を善す

●加藤圓齋 (儒家)

天明  
年五十餘

歿

名矩直、字宗椒、美濃の人、岡白駒に學ぶ

●**皎天齋國雄** (畫工)

橋守國門人、俗稱酢屋平十郎、挹芳齋と號す、描く所毛詩品物圖攻、挹芳齋畫譜刻本世に行はれり

●**川上靜庵** (國學家)

臨江齋と號す、浪花の人京橋に住す、國家に委し、著述の書源氏物語斷錦あり安永天明中の人、不知卒年

茶臼山 邦福寺

●**上月專庵** (儒家)

鶴州と號す、俗稱丹藏、儒家にして醫を兼たり、著述の書和韓唱和錄、日本學則、徂徠學則辨等あり

寶曆二年二月六日歿  
年四十九

八丁目寺町 專念寺

○**金谷三石**

名は興般、字は子般、三石と號し、大阪南部の市長となりて代々天満金屋町に

寛政六年五月廿三日歿  
年六十三

西成郡木川村 正通院

住す、儒學を好み又畫を善くせり、嘗て長崎祇役の折柄江熊斐について花鳥を學ぶ、墓面に興般居士之墓と記し、裏に中村健の文を刻す、書は鼎元新なり

○**金谷興詩**

三石の男、名は興詩、字は立禮、遷齋又夢野と號す、俗稱與右衛門父の跡を嗣いで南部の市長となる、性學を好み著述の書また少からず、墓面に金谷興詩之墓と記し、裏面に中井碩果の文を刻す

天保六年六月十四日歿  
年六十二

西成郡木川村 正通院

○**金城** (畫工)

春嶽の男、名は鉉、字は子玉浪花の人畫を善す、墓は自然石にして表面には隸書を以て鼎金城先生墓と記し、裏面に橋本香坡の文を刻す

文久三年五月晦日歿  
年五十三

福島村 妙徳寺

○**河竹能進** (狂言作者)

河竹默阿彌の高足、明治三年大谷友右衛門に従ひて大阪に來り、櫻田雪誠忠美談を作りて人氣に投ず、以來續々新作狂言を出し、大阪劇界の面目を一新す、碑は大なる自然石にして、河竹能進碑と刻す

明治十九年十月廿六日歿  
年六十六

茶臼山 雲水庵

○高良齋 (醫家)

弘化三年九月十三日歿  
年四十八

南谷 妙光寺

名は淡、字は子清、輝淵と號す、徳島藩の蘭醫なり、文政十二年高橋東岡の地圖事件に座し獄に下る、後赦されて大阪に來り醫を業とす、眼科の名人なり、著述の書眼科使用、女科精選等數種あり

○片岡仁左衛門 (俳優)

天保八年三月朔日歿  
年八十三

中寺町 藥王寺

初名中村松助、後淺尾奥山の門弟となり淺尾國五郎と稱せしも、或事情の爲破門せられ、三保木儀十郎の周旋によりて七代目片岡仁左衛門を嗣ぐ、家號松島屋我童と稱す

○片岡仁左衛門 (俳優)

文久三年六月十六日歿  
年五十四

中寺町 藥王寺

幼名三榊光五郎、嵐璃寛の門弟となつて橋三郎と改名す、天保三年七代目の養子となり、安政四年中村座にて八代目仁左衛門となる、俳名を我童といふ

○鎌田應昇 (畫工)

嘉永五年正月八日歿  
年二十三

巖松の女、通稱梅、畫を父に學びて人物花鳥山水を善くす

○河内屋太郎兵衛 (奇人)

大阪備後町の豪商性滑稽諧謔を好み、任俠を以て其名著る、時人河太郎と稱す

○狩野宗朴 (茶家)

文政元年七月四日歿  
年七十一

大阪の人、石翁玄室の門人、素齋訥翁と號し、別號を枝月庵又白蕒庵と稱す、古器の鑑識に長す

○珂然 (僧)

延享二年十月十一日歿  
年七十七

大阪の人、俗稱松井、眞阿又寒叟と號す、生玉法泉寺に住す、篤學の聞へあり著述の書文多しといふ

○兼道 (刀匠)

寛文十二年  
年七十

歿

大阪の刀匠、姓は藤原、通稱吉兵衛、三品丹後守と稱す、寛永二年受領し、作る所の刀銘に菊一を刻す

○兼光 (刀匠)

享保十七年

歿

尼崎の刀匠、姓は藤原、氏は三品、通稱門平、但馬守に拜す、後二世丹後守兼道の養子となり大阪に住す

○勝 諺 藏 (狂言作者)

明治三十五年十月廿七日歿  
年五十七

茶臼山 雲水庵

河竹能進の男、東京の人、瀬川如臯の門に入つて濱彦助と稱し後大阪に住して諺藏と改む

○片岡あやめ (俳優)

文政七年四月十七日歿  
年四十一

大阪の俳優、豊松半三郎の男、幼名熊吉、後片岡の養子となる、當時立女形の名人と稱せらる

○片岡我童 (俳優)

明治廿八年四月十五日歿  
年四十五

大阪の俳優、八代目仁左衛門の男、幼名土之助、法號を龍淨院仁我日紅信士

○片岡仁左衛門 (俳優)

大阪の俳優、初代仁左衛門なり、寶永正徳中の人

○片岡仁左衛門 (俳優)

四代目仁左衛門、俳名茶谷

○片岡仁左衛門 (俳優)

五代目仁左衛門、幼名山本七藏

○香川南洋 (醫家)

安永六年八月十六日歿

名は景興、字は主善、紙莊主人と號す、修徳の門人、後養子となる

○桂 文 枝 (落語家)

明治七年

歿

下寺町 遊行寺

法號、桂壽院善譽諦心文枝居士

○桂文團治 (落語家)

明治十四年九月

歿

下寺町 遊行寺

法號、放足院清進日鳩信士

○勝 桂 助 (狂言作者)

茶臼山 雲水庵

〔き〕

●北向道陳 (茶家)

元龜三年正月十八日歿  
年五十九

堺 南宗寺

本姓荒木氏、堺の人なり、北向の家に居るゆへ北向を以て氏とす、茶道を嗜み其法を空海に受て宗易に傳ふ、紹興歿後道陳を以て宗匠とす

●菊川道山 (書家)

文化九年正月廿一日歿  
年

寺町 超心寺

御家流書家にして名高し、俗稱喜造といふ、菊川二代目なり

●其日庵尺艾 (俳諧師)

文政二年二月廿二日歿  
年

天王寺中町 龍泉寺

●玉雲齋貞右 (狂歌師)

寛政二年二月廿四日歿  
年五十七

蓬坂 一心寺

姓は雄崎氏、俗稱尼屋市兵衛、浪花の人狂歌を善す、芥川貞佐の門人にして初の名混沍軒國丸と號す、後一家をなして門人一千三百人ありしといふ、世に丸派といふ

●北山壽庵 (醫家)

元禄十四年三月十五日歿

口繩坂上 太平寺

友松子と號す又仁壽庵、逃禪堂とも號す、浪花に住す、父は清人福州榮宇馬府君、母は日本長崎遊女樋口氏、此人近代無双の名醫にして近世崎人傳に出たり

●金鳳堂東隄 (俳諧師)

文化十三年五月八日歿

難波村 瑞龍寺

●北山七僧 (儒家)

文化三年五月十一日歿

天王寺南 超願寺

名は皓、字白甫、儒家にして醫業を兼行す

●鬼粒亭力丸 (狂歌師)

嘉永元年六月十一日歿

東高津 寶樹寺

●紀海音 (戯作者)

寛政二年十月四日歿

八丁目寺町 寶樹寺

由縁齋貞柳の舍弟にして浪花の人なり、俗稱鯛屋喜右衛門後善八と改む、曾て僧となりて黄檗の悦山和尚に屬し高節といふ、爾後還俗して滑稽家となる、又契沖の門に遊び契因鳥路觀と號す、又貞峨と改む、紀海音は淨瑠璃の作名にして豊竹座の操りの作者となり近松と並び稱せらる、法號清潮院海音日法居士

●菊川

初代なり  
明和元年十月廿四日歿

生玉 法音寺

●近路行者 (儒家)

名は庭鐘、字は公聲大江漁父と號し又辛夷館と稱す、近路行者は其戲號なり、俗稱都賀六藏、『浪花の人にて儒を業とし書畫を善す、風流の才ありて小説稗史の趣を得たり、英草紙、繁々夜話、垣根草、大江漁唱、幸夷館隨筆等あり、寛延寶曆明和頃の人

●木戸由巳 (儒家)

名は元春、字純仁儒學に達し浪花にて教授す、延享

●木村片石 (畫工)

名は徳、字は子順、俗稱六藏、今宮住

●木村石居



名孔陽、字世輝、俗稱吉右衛門、藤菴堂の男

○岸田素屋 (俳諧師)

明治十一年十月二十一日歿  
年六十六

天満寺町 専念寺

當代正風俳諧の名譽なり、法號眞譽淨定素屋居士

○吟

石 (俳諧師)

享和二年 月 日歿

福田練石門人、大阪の人山田氏、井龜軒と號す

○木下蘆洲 (畫工)

明治十二年六月廿日歿  
年七十三

大阪の人、名は直行、林文波に就て業を修む

○木津宗全 (茶家)

眞齋宗守の門人、大阪の人

○菊 峰 (俳諧師)

大阪の人、氏は武田、景富堂と號す、小宮山辛陀の門人

○菊澤檢校 (音曲家)

三代目菊澤

天王寺内 東之院

○菊塚檢校 (音曲家)

天王寺

〔く〕

●倉鉢魯石（書家）

天明七年九月十三日歿  
年六十六

八丁目寺町 西海寺

●花月庵（茶家）

毛孔と號す

○熊谷直好（國學家）

文久二年八月八日歿  
年八十一

山小橋 西念寺

初名信賢、通稱を助左衛門又勘作と稱す、周防岩國の人大阪に住す、桂園門下の名家なり、著述の書、梁塵後抄、法曹至要抄注釋等數種あり、墓面に熊谷直好翁之墓と刻す、法號不識庵香一居士

○黒澤翁滿（國學家）

安政六年四月二十九日歿  
年六十五

口繩坂 珊瑚寺

名は重禮葎居と號す、桑名の人、武州忍藩に仕へて大阪留守居役となる、學を本居宣長に就て修め、難波職人盡歌合、言靈のしるべ、萬葉集大全等數種の書を著す、法號誠忠院圓應翁滿居士

○觀 山 (茶家)

大阪の人、藤村正齋の門人茶道に委し、號を寥々庵と云ひ又漸至庵、解脱庵と稱す

○熊次郎 (孝子)

大阪天満郷の人、鑿工某の子なり、弟馬之助と共に能く父母に盡す、天明五年二月官共至孝を聞き銀錠三十枚を賜ひ、以て之を旌す、時に熊次郎年十四、馬之助年十、聞老阿部侯之を聞き銀十二枚、棉布二十反を賜ふ、時人喧傳して盛事となし、其製籃を求め、號して孝籃と云ふ

○國吉 (刀匠)

初代伊勢守國吉門人、通稱治右衛門、和泉守と稱す、後二世伊勢守國吉を嗣ぐ大阪に住す

○國貞 (刀匠)

大阪の刀匠、初代國貞、和泉守と稱す、堀川國廣の門人、慶長慶安中の人、法

名道和、門人に井上國貞あり

○櫛橋榮春齋 (畫工)

大阪の人、名は正盈、狩野派の畫人なり

明和二年 月 日没

〔け〕

●契冲阿闍梨 (國學家)

元祿十四年正月廿五日歿  
年六十二

東高津 圓珠庵

契冲は姓下川氏、諱は空心、攝州尼崎の産なり、十三歳にして出家し、生玉曼荼羅院、泉州久井の里及池田川の側又今里の妙法寺に住す、後に東高津圓珠庵に退隠し、此處にて歿す、密法に達し皇朝の典籍に精しく和歌を善す、著す所の書許多あり、碑文は五井純禎撰なり

●藁葎堂世肅 (物産家)

享和二年正月廿六日歿  
年六十七

小橋寺町 大應寺

木村氏、名は孔恭字は巽介、或は遜齋とも書り、又世肅と號す、俗稱多吉郎坪井屋と號す、其始堀江に居住し、酒造を業とす、幼きより物産に心をよせ珍奇の藥物をはじめ器具地圖金石の碑文、古人の書畫經史詩文諸の書籍萬端あらずといふことなし、原より博學にして畫をよくす、實に浪花の一奇人なり、墓碑に要齋氏の文を刻す

●月下庵廉山 (俳諧師)

安永八年二月十一日歿  
年四十五

達坂 一心寺

●桂果亭幽山 (狂歌師)

文化八年六月十五日歿  
年五十五

清水北坂 泰聖寺

●玄鳥舎株丸 (狂歌師)

●繼我菴市丸 (狂歌師)

○喧嘩屋五郎右衛門 (俠客) 元祿十四年十二月三日歿

大阪の俠客、元祿十四年六月七日争鬪の事を以て獄に下り、獄中に歿す

○月 筌 (僧)

享保十四年十一月十五日歿  
年五十九

大阪天満の人、字は崇信、難思議弗知と號す

〔一〕

●五竹庵木仙 (俳諧師)

文化十二年正月五日歿  
年七十餘

天王寺東 清壽院

木仙は竹上氏、初め八千坊陀岳といふ、後に五竹庵と號す、丹州の人浪花に住す、近來俳諧の達人なり、○「浪華人傑談」に曰、近頃末葉の人議つて清壽院に在りし墓を難波瑞龍寺に移すと

●五井蘭州 (儒家)

寶曆十二年三月十七日歿  
年六十六

八丁目寺町 實相寺

名純禎、字は子祥、洲菴と號し又蘭州と號す俗稱藤九郎、儒學の名家なり、著述非物蘭茗話瑣語質疑篇古今通源話勢語話等あり、○墓碑には蘭洲五井先生之墓と篆額をなし、其下に中井竹山の文を刻す

●小柴景山 (畫工)

享和元年七月十七日歿

下寺町 善龍寺

幽深齋と號す、探春齋門人

●五井持軒 (儒家)

享保六年閏七月十八日歿  
年八十一

天満東寺町 九品寺

五井氏は名は守任俗稱加助、儒學の名家にして浪花において教授す、○墓には持軒五井先生之墓と記し、伊藤東涯の撰文を刻す

●江月庵 (書家)

天明二年六月廿九日歿

谷町南 吉祥寺

俗稱大藏勘解由、生玉神社の神官なり、明朝の書に達す、古今に冠たりといふ安永天明中の人、不知卒年、○證號源水清高神人

●五鳥つう (戯作家)

姓増田氏、俗稱勘藏、浪花天満南同心町に住す、東御組同心なり、小説の著述和漢染分、宇治奇聞尙其餘あり

●小杉平右衛門 (書家)

人左と號す

●後藤兼山

名機、字世張

●壺中庵梅干丸 (狂歌師)

俗稱小山忠兵衛、藍州と號す、三日坊雛丸の門人にして狂歌及狂詩を能す

●小島彤山 (彫刻家)

弘化二年七月十六日歿  
年五十二

中寺町 禪林寺

名は朧、字は子産、彤山と號す、丹後峯山の人なり

●後藤松陰 (儒家)

元治元年十月十九日歿

天満寺町 天徳寺

名は機、字は世張、別號を春草といふ美濃の人大阪に住す、頼門の高足篠崎家の女鐙なり、墓面には、松陰後藤先生墓、裏面に歿年を刻す

●小春治兵衛 (情死者)

享保七年十月十四日歿

網島 大長寺

戯曲「心中天網島」によつて其名著る、即ち小春は曾根崎新地紀伊國屋の歌妓にして、治兵衛は狎客紙屋治兵衛なり、墓は一箇の石佛を安置し、其臺石の表に釋了智、妙春信女と二人の法號を刻す

●衣川長秋 (國學家)

文政五年二月十日歿  
年五十八

東高津 圓珠庵

伊勢の人、本姓池田氏、後衣川氏の嗣となる、鈴屋翁に従つて學ぶ、當代の名譽なり、號を瓊齋と稱す

○獄門庄兵衛 (俠客)

大阪北濱の人、上町に住し茶筌組の乾頭となり、其名四方に震ふ

○五岳 (畫工)

名は元素、字は子綯、別號を王峯といふ、備後の人大阪に居住す、池大雅に就て畫を學び頗る名手の聞へあり、安永年中の人

○五代友厚 (實業家)

明治十八年九月二十五日歿  
年五十二

阿部野墓地

鹿兒島の舊藩士、維新の革命に際し官吏となつて國事に奔走す、後實業家となり、大阪に來つて商業會議所を設け所長となる

○小柳平助 (力士)

文久元年四月十六日歿  
年三十三

天王寺内 中之院

肥後熊本の人、殺されて死す

[ 20 ]

●澤井穿石 (書家)

安永八年正月廿日歿  
年

高津 法雲寺

晩年志津磨と稱し、松竹堂と號す、浪花に住せり

●佐野龍雲

文化五年正月廿一日歿  
年

天王寺

●佐々木泉明 (俳諧師)

寛政五年六月三日歿  
年七十八

谷町南 吉祥寺

俗稱住吉屋市兵衛、浪花四ッ橋に住し藥酒を賣て業とす、尤市中の隠君子にして和歌俳諧をよくす、○墓碑に奥田元繼の文を刻す

●佐々木志津磨

寛保元年八月十四日歿  
年五十六

濱村墓地

名は春、字専林、専念翁子と號す、浪花に住す松竹堂と號す、京都の志津磨とは別なり

●佐藤魚丸 (狂歌師)

浪花の人阿波座豊島町に住す、國九の門人にして狂歌を善す、蝙蝠軒と號す、自詠の狂歌集あり、曾て淨瑠璃の戯作を好んで多く著述す、作名を佐藤太といふ

●些庵月居

浪花に住す、京師に終る

京都東山・金福寺

●佐々木魯菴 (詩人)

嘉永三年七月廿一日歿  
年六十三

名は鳳、字は子岳龍公美門人、浪花の人、著述魯庵詩集あり、法號神翁麗通公長居士

●佐藤魚大 (畫家)

名は蓋之、字は士朗京師月溪の門人後一家をなす

●阪新藏 (算術家)

浪花の人、名は正永、算法の達人にして天文學に委し、天明頃の人

●三斗庵古樂 (俳諧師)

天保八年六月  
年五十七 歿

谷町 本政寺

木僊門人、俗稱佐野屋與兵衛、浪花の人、法號天真院古樂日道居士、辭世もど  
の水にかへるど嬉し草の露

●齋藤鑾江 (儒家)

嘉永元年八月十三日歿  
年六十四

濱村墓地

名は象、字は世教、俗稱を五郎といひ阿波の商人藤右衛門の男なり、大阪北濱五丁目に塾を開きて教授す、著述の書四書叙旨、五經志疑、左傳說、國語評、史記文評等數種あり、歿年を一に嘉永五年と云ふ、墓面には齋藤先生墓と記し、野田笛浦の文を刻す

●阪本鼎齋

萬延元年九月廿四日歿  
年七十

中寺町 大倫寺

名は俊貞、字は叔幹、通稱鉦之助、鼎齋と號す、大鹽の亂に、鉦を放つて賊徒を追散らして名著る、墓面に坂本俊貞之墓と刻す、後年並河鳳來其傍に剛毅君之碑銘と題せし石を建つ

●阪本葵園 (詩人)

明治十四年十二月十九日歿  
年五十五

清畑 梅松院



名は亮、字は亮平、葵園又白蓮居士と號す、淡路堺村の人、藤澤東畝、村上佛山の塾に入つて詩を學び後大阪に来る、著述の書白蓮池館詩鈔あり、墓面に、葵園阪本先生墓と記し、藤澤南岳の撰文を刻す

○澤村國太郎 (俳優)

文政元年七月二日歿  
年八十

寺町 圓融寺

初代高助門弟澤村長四郎の男、幼名長吉、家號三笠屋、女形の名人なり、後隱居して神路館海老麿と號す、俳名を其答といふ

○澤村國太郎 (俳優)

嘉永二年十一月十六日歿  
年三十六

中寺町 圓妙寺

幼名仙之助、四代目國太郎を嗣ぐ

○佐渡島長五郎 (俳優)

寶曆七年七月十三日歿  
年五十八

中寺町 藥王寺

所作事中興の祖なり、行狀は佐渡島日記に委し、遠智坊と稱す

○齋藤安藝守 (馬術家)

名は好玄能登、熊本の城主なりしが敵寇の爲に城を失ひ大阪の荒木元清の家に

寓し、此家にて歿す、世人大坪流中興の祖とす

○澤村宗十郎 (俳優)

明和七年八月晦日歿  
年五十八

初名澤村四郎五郎、初代の養子となり、寛延二年十一月二代目宗十郎を襲名す  
俳名龜音又訥子と云

○澤村宗十郎 (俳優)

寛政十三年三月廿七日歿  
年四十九

二世宗十郎の男、初名田之助、後三代目宗十郎を襲名す、俳名訥子

○澤村宗十郎 (俳優)

文化元年十二月八日歿  
年三十九

三世宗十郎の男、初名源之助、後四代目宗十郎を襲名す、俳名訥子、當時の名優と稱せらる

○佐野川市松 (俳優)

寛延元年七月十九日歿  
年五十八

大阪の俳優、初名十吉、後佐野川萬菊、藤川繁右衛門の門弟、道化方に名あり  
初代市松といふ

○定 重 (刀匠)

源姓、美濃關の刀匠にして重虎の族なり、後大阪に居住す寛文中の人

○佐々木忠連 (彫工)

俗稱三郎兵衛、大阪玉造に住す

〔し〕

●椎本才麿 (俳諧師)

元文三年正月二日歿  
年八十三

天王寺椎寺 藥師堂

才麿は椎本氏、字は少文舊徳翁と號す、和州宇陀の人にして浪華に住し江北に歿す、其初西鶴の弟子となりて西麿と號し、後宗因の直弟と成、家書千葉集伊丹句合等あり、○俳諧年表には元文二年歿、西寺町萬福寺に葬るとあり

●下河邊長流 (國學家)

貞享三年六月三日歿  
年六十三

大今里 葬地

吟叟居士と號す、國學の名家なり、和州宇陀の人浪花江戸堀に住す、俗稱彦六玉造の東大今村に墓あるよし、葛城氏の筆記に見へたれど今廢してなし

●澁井太室

天明八年六月十四日歿  
年六十九

生玉 玄徳寺

著述の書十二部書名月録續人物誌に詳なり、○碑面に太室澁井先生之墓と記し紀平洲の文を刻す

●秋聲館鳥窓 (俳諧師)

寶曆元年八月八日歿  
年

法心寺

姓は阿賀氏

●十萬堂來山 (俳諧師)

享保元年十月三日歿  
年六十三

蓬坂 一心寺

小西氏、幼稚より由平の門弟となり出藍の譽富ならず、未だ二十に滿たずして業をたて、詞宗となる、自ら湛々翁と稱す、尤老莊の風あり、攝南の今宮村に歿す、○墓の正面に湛々翁之墓、右側に享保元年丙申十月三日終、左側に施主一來同連中と刻す、尙「時雨る、や」の句碑は寺内茶店の前に在り

●十南齋茶雷 (俳諧師)

安永元年六月十八日歿

北野 善通寺

山縣氏、東居齋と號す

●十南齋茶裡 (俳諧師)

文化四年七月廿六日歿  
年七十三

北野 善通寺

墓碑には文化五年辰八月一日に歿すとありて、辭世の句を刻せり

●十歸庵華笠 (俳諧師)

文化八年四月廿九日歿  
年八十

上福島 妙徳寺

●蛇玉葛子明 (畫工)

安永七年十月廿日歿  
年四十六

下寺町 大蓮寺

○橋守國門人、名季原、字子明、洞郭と號す浪花の人畫を能す、男に蛇舎あり亦畫を描く

●篠崎三島 (儒家)

文化十年十月晦日歿  
年七十七

天満東寺町 天徳寺

名は應道、字安道郁州と號す、俗稱長左衛門儒學の名家なり、著述の書草彙論孟述意、郁州摘草、放言碧紗籠集等あり、○墓面に三島篠崎先生墓と記し古賀樸撰の文を刻す

●司馬芝叟 (戯作家)

俗稱芝屋勝助、肥前長崎の産にして、母は圓山の遊女父は來舶の清人なりとぞ儒にわらず醫にわらず一崎の人なり、享和の頃浪花に來て淨瑠璃を戯作す、箱根靈驗盛仇討、新吉原瀬川仇討等あり、又讀本をも著述し歌舞妓狂言をも作す常に長話として小説稗史文をつゞりて是を講ずることをせり

●松好齋 (畫工)

浪花の人、俗稱半兵衛島の内清水町に住す、浮世繪を善し又俳優の肖像を摸するに巧なり、且戯作をもなす、畫く所の印本あまたあり、實に近世の名家なり

●篠崎小竹 (儒家)

嘉永四年五月八日歿  
年七十一

天満寺町 天徳寺

名は弼、字承弼畏堂と號す、詩文に達し書を能す、實に近世の大家なり、○墓面に小竹篠崎先生之墓と記し裏面に伊勢齋藤氏の撰文を刻す

●篠崎竹陰 (儒家)

安政五年八月 歿

天満寺町 天徳寺

小竹の男なり、儒業を繼ぎ詩文に長ず、俗稱長平と云、墓面に竹陰篠崎先生墓と刻す

●如棗亭栗洞 (狂歌師)

寛政三年十月十七日歿  
年七十二

千日前 法善寺

●如雲舍紫笛 (狂歌師)

安永八年八月十六日歿  
年六十二

東三番村 貞圓庵

俗稱新右衛門、木端の門に入て狂歌な善す、後一家をなす、原來禪學を好んで後臨濟宗の僧となつて拙堂と改む、三番村貞圓庵に住持す、著述の書あり、○享年一に五十九と云ふ

●蒨 關 月 (畫工)

寛政九年十月廿一日歿  
年五十一

北中島木寺村 正通院

名は德基、字子温、俗稱原二、浪花の人にして月岡雪鼎の門人なり、近代畫工の名家なり、山海名産圖繪、伊勢參宮名所圖繪の二部は此人の畫なり、叙法橋

●蒨 關 牛 (畫工)

天保四年 歿

名は徳風、字子偃又蕘楊齋と號す、立賣堀一丁目に住、關月男

○升 六 (俳諧師)

文化十年九月三日歿

通稱升屋六兵衛、二柳に就て俳諧を學び、升六と號し又正風道場、黄花庵、翁堂と別號す

○衆 鑑 (僧)

文化四年正月十六日歿  
年八十三

浪花淨明寺の住持、字は月皎、無爲室と號す、著書に二乗成佛章、易行品講録淨土論隨釋等あり

○舍 羅 (俳諧師)

芭蕉門人、北枝と同時の人、常に清貧を尙ふといふ

○城宗信 (茶家)

正徳元年七月 歿

土岐伊豫守の家臣、茶道に委し

○心齋 (茶家)

大阪の人市川氏、茶道に名あり、貞享頃の人

○清水理兵衛 (割烹家)

大阪安居天神の傍に住す、性淨瑠璃を好み、井上播磨の門に入つて業を受く、頗る妙舌の聞あり、彼上東門院の曲は、理兵衛の始て唱出せるものなりと云ふ播磨の歿後時人呼ぶに今播磨と稱す、後薙髮して伴西と號す

○島田淇竹 (醫家)

名は義知、字は謹隆、大阪の人、性慷慨、能く人の窮難を救ふ

○實川延三郎 (俳優)

元治元年 月 日歿

茶白山 雲水庵

實川家二代目の人、額十郎の養子なり、家名井筒屋、俳名を延若と云ひ、色立

役の一人にて世話事の名人なり

○實川額十郎 (俳優)

天保六年 正月四日歿  
年五十四

大阪の俳優、實川家の祖、淺尾工左衛門の門弟、初名淺尾八百藏、文政七年實川額十郎と改名す、近世の名人なり

○元道 (俳諧師)

大阪の人俗稱伏見屋久右衛門、後諷竹と號す

○不知火諾右衛門 (力士)

明治十二年二月二十四日歿  
年五十五

下寺町 遊行寺

二代目不知火諾右衛門、法號、釋淨導

○尙古齋 (竹細工師)

明治十八年三月  
年

茶白山 雲水庵

浪花の人竹細工の巧手なり、一世、二世合葬

〔す〕

●墨江武禪 (畫工)

文化三年正月廿九日歿  
年七十三

東天滿 妙福寺

墨江氏名は道寛、字は子全、心月と號す、浪花の人初め彫物を學びて妙を得たり、後改業して月岡雪鼎に従ひ畫の一家をなす、一説歿年六十七といふ、○法號春光院武禪信士

●菅 甘 谷 (儒家)

明和元年三月廿三日歿  
年七十四

天王寺東 舍利寺

菅氏名は晨耀、字は子旭小善と稱す、徂徠の門人、尤詩文に長ず、浪花に來て教授す、門に入る人甚だ多し、凡浪花において徂徠學を講ずること菅氏にはじまるどぞ、著述の妻菅谷遺稿あり、徂徠集に屈子旭又南嶠秀才とあるは此人なりとぞ、○墓表には甘谷菅先生の五字を刻す、後年浪花の藤澤氏墓石に先生の行狀を刻す、文は樂郊兄の撰

●墨江敬所 (畫工)

文政九年七月五日歿  
年

妙福寺

墨江武禪男なり

●須賀蘭林齋

文化三年十二月六日歿

生玉南 立徳寺

●菅沼東郭 (儒家)

寶曆十三年十二月二日歿  
年七十四

四天満寺町 寒山寺

名は大簡、字は子行文庵と稱す、浪花に教授す

●菅松峯 (花道家)

嘉永四年十月廿日歿  
年六十二

生玉 月江寺

名は伯太、桃溪の門人生花を能す、松眞齋と號す

●鈴木寛祐

字仲郇、壽伯と號す

○末吉勘兵衛尉村長

上本町 源光寺

〔せ〕

●千利休 (茶家)

天正十九年二月廿八日歿  
年七十四

般若寺

初め納屋與四郎と號す、堺市町の人にして姓は田中氏、其先は室町家に仕へて  
同朋となり千阿彌といふ因て後千氏に改む、抛筌齋と號す

●仙果亭嘉栗

寛政十一年四月廿四日歿  
年五十三

生玉南 西方寺

●聖應阿闍梨

天明七年四月廿九日歿  
年七十余

生玉 持寶寺

著述の書神道辨惑、胡蝶庵隨筆等あり

●井眉菴 (俳諧師)

吾春莊と號す、周防町心齋橋東

●雪操 (狂歌師)

吹田の産、大阪上町に住す、文人畫に巧にして其名世に鳴る

○關南頼（書家）

浪花の人、名は世美、字は士濟、書を以て著る

〔そ〕

●曾谷讀騷（彫工）

寛政九年十月廿日歿  
年六十

小橋 天然寺

名は子唯、印刻の名家なり、儒學を片山北海に受るといふ、著述の書古印彙、  
印語纂、印籍考、漢篆千文補遺等あり

○藪平三（儒家）

嘉永二年十月朔日歿  
年七十七

八丁目中寺町 梅松院

名は平、字大平、鶴堂と號す、古稀の後平更と改じ、淡州福良の人、浪花長堀  
橋南詰に住す、儒學の名家なり



〔た〕

●橋保國 (畫工)

寛政四年二月廿三日歿  
年七十六

高津 久成寺

守國の男なり、法眼に叙す、父におとらす畫を善す、描く所の刻本野山草詠成等ありて世に行はる

●橋守行

稱左近

文化元年二月廿五日歿  
年五十四

善龍寺

●田中鳴門 (鑄物師)

天明八年三月廿七日歿  
年六十七

天王寺中町 龍泉寺

田中氏は浪花阿波座岡崎橋に住し、金屋七左衛門といへる鑄物師なり、鳴門橋に隣るを以て鳴門を號とす、名は章、字は子明

●高良陶齋

天明六年四月廿日歿  
年七十四

堺南宗寺内 本源院

趙氏、名は養、字仲願息心と號す、長崎の人、或云清人趙某の子なりと、初め僧にして黃壁竺庵の徒弟なり、歸俗の後四方に周遊し、晩年泉州堺に於て歿す

豪邁善書の名一時に盛なり、草書にして自筆の著述の書あり

●多田宗掬 (茶家)

寶曆八年五月九日歿  
年六十九

天満東寺町 長徳寺

播州姫路の人浪花に住す、茶道の名家なり、物々齋又餘月庵と號す、風流一世に冠たり、多田氏の初代とす、千家表流なり

●武橋鳩梁 (卜筮家)

天保四年五月十三日歿  
年五十五

口廻坂 淨春寺

武橋氏は卜筮家にして保科の門人なり、宮内と號し、通稱榎並屋何某といふ

●大黒庵奇淵

天保五年五月十八日歿  
年七十二

八丁目寺町 寶樹寺

號茅渚翁

●竹村雪啓 (書家)

文化三年七月廿五日歿  
年六十三

遊行寺 圓成院

●橘保春 (畫工)

文化十三年七月廿九日歿  
年六十七

高津 久成寺

●竹田出雲 (狂言作者)

寛保二年九月二日歿  
年六十四

生玉 青蓮寺

二代目出雲にして千前軒と號す、頗る文筆の才あるによつて、享保の頃より淨瑠璃を作る、假名手本忠臣藏をはじめ佳作とするもの數十種あり、百餘年の今に廢らず、淨瑠璃歌舞妓等に仕てやらせる狂言は大約出雲が作なり、○辭世影涼し千々に彌勒の腹袋、歿年を一に寶曆六年十月二十一日とせし書あり

●辰岡萬作 (狂言作者)

文化六年九月三日歿  
年六十八

浪花島の内疊屋町に住す、歌舞妓狂言の戯作に名を得たり、著す處數番あり、おのゝ大當をとりにて評高し

●竹本筑後 (音曲家)

正徳四年九月十日歿  
年六十四

天王寺南 超願寺

天王寺村の農夫にして五郎兵衛といふ、生質淨瑠璃を好みて精練し、義太夫と號す、終に一流の新風を工夫し世に流布せしむ、則これを義太夫節といふ、其行はるゝ事世人の知る處なり、○法號釋道喜居士

●竹田近江 (戲曲家)

享保十四年閏九月十九日歿  
年八十一

生玉 青蓮寺

原は阿波國の人、江戸に住せしが後京師に於て唐操人偶を調進し、初て竹田出雲と受領を拜す、其後寛文二年浪花に於てはじめて機振戲場を願ひて興行し、享保十一年五月五日竹田近江と受領を改む、是竹田のからくりの元祖なり、○歿年一に享保十二年九月十九日行年八十一歳といふ

●竹原澧水 (書家)

文政五年九月十九日歿

濱村墓地

●武邑松軒

文化十四年十月十三日歿  
年五十三

生玉南堂閣寺

俗稱清造、近代和様の名家なり

●橘守國 (畫工)

寛延元年十月十七日歿  
年七十

高津久成寺

後素軒と號す、浪花に住す、探山の門人にして一家をなす、刻板の密畫に妙を得たり、描く所の畫本故事談、訓蒙圖彙、寫寶袋、畫典通考、通寶志、謠曲畫誌、鶯宿梅、直指寶此餘尙多し

●武野紹鷗 (茶家)

永祿元年十月廿九日歿  
年五十三

堺南宗寺

初名は仲村新五郎、一閑居士と號す、宗陳宗悟二居に就て茶術を受、京師戎堂の隣に宅を構へて大黒庵といふ、後堺の津に移る、珠光の後茶家の宗匠とす、○一に歿年を弘治元年十月廿九日といふ

●多田宗掬 (茶家)

寛政七年十一月廿三日歿

天滿東寺町長徳寺

二代目宗掬なり、號十友齋

●谷川龍山 (易學家)

天保二年十二月四日歿  
年五十八

天滿東寺町寶祿寺

俗稱順助、浪花天滿の人、易學を眞勢中州に學びて名を得たり、著述の書周易本筮指南、圓筮筮法指南、左國易一家言、易學楷梯附言此餘尙多し

●竹内確齋 (儒家)

文政五年十二月廿五日歿  
年五十七

小橋寺町傳長寺

名は温、俗稱西左衛門、浪花布屋町に住す、篠崎三島の門人にして儒學に達す小説室の人島を著述す、畫本玉藻譚、阿也可志譚等も此人の作にして、玉山の名を以て世に弘む

●竹田小出雲

千前軒竹田出雲の男なり、淨瑠璃の佳作少なからず、就中新うす雪物語、軍法富士見西行、日高川入相花王、夏祭浪花鑑等世に名高し

●高安莊次郎 (儒家)

蘆之屋と號す、浪花の人、著述和漢年契、都會節用集等あり、寛政四五年頃卒す

●多賀子健 (畫工)

流光齋の男、畫に巧なり、惜ひべし壯年に歿す、朴仙と號す

●田中秋亭

畫工公長の門人、安政年

新清水四坂ノ下

●高田七郎兵衛 (算術家)

●桃李園栗窓 (狂歌師)

石屑元武民遠々庵と號す、俗稱長橋間右衛門

●武田篤之進 (算術家)

算術の名家にして一家を成す、世に武田流と稱す、著述の書世に行る、初名之乎、後主計正真元と改む堺の人、浪花に住す

弘化三年十二月廿六日歿

下寺町 光明寺

○只丸 (俳諧師)

高田宗の僧、法名覺印、京都本誓寺福昌院に住す、後谷町欣淨寺に移る、俳諧を椎木才麿に就て學び、弄松閣又鴨水子と別號す、家書小松原、足揃、おのがひかり、三河じる等數種あり、謚を樹心房と云ひ、辭世を「陸を思ふ鴨やなにはの水はなれ」といふ

正徳二年十一月二日歿 年七十余

谷町 欣淨寺

○高見照陽

名は岱、字は子喬、照陽又盧門と號す、伊賀上野の人、大阪土佐堀に住す、墓面に照陽高見先生墓と刻す

明治十三年七月廿九日歿

妙徳寺

○田能村竹田 (畫工)

天保六年八月廿九日歿 年六十

南寺町 淨春寺

名は孝憲、字は君舜、號を竹田、雪月齋堂又補拙廬等と稱す、俗稱行藏豐後の人、古谷昔陽、岳東海等に從つて修め、文晁に畫法を學ぶ、當時畫界の名譽なり、歿年一に天保五年八月二十六日、行年五十九歳といふ

○竹本播磨少椽 (音曲家)

延享元年七月廿五日歿  
年五十四

天王寺領 國恩寺

筑後椽門人、初名中紅屋長四郎後二代目竹本義太夫となる、元文二年改めて播磨少椽喜教と稱す、時人淨瑠理中興の祖とす、法號名聞院乾外孤雲居士

○田中君安 (儒家)

文久二年六月二十八日歿  
年十九

中寺町 妙壽寺

名は樂美、字は君安、金峰と號す、通稱右馬三郎、父華城に隨つて學を修め、出藍の聞へあり、一歳米價騰貴して乞子となる者多し、君安是を憂ひ、我が藏する處の束脩を以て米を買ひ、之を施す、時に年十七、著はす處大阪繁昌詩、金字篇等數種あり

○高田未白 (國學家)

浪花の人、垂加の門に入つて神道を唱へ、塾を開いて神書を講ず

○高橋殘夢 (歌人)

嘉永四年二月二十七日歿  
年八十七

浪花の人、名は正澄、桂門の秀才なり

○瀧田大立 (俳諧師)

延享元年四月二十六日歿  
年六十九

浪花の人、椎本才磨の門人、水足軒と號す、家書にもこの水あり、辭世「花は二十日我は六十九夜の明」

○龍木勘藏 (根付師)

大阪天満の人、根付師の名工なり

○田邊五郎兵衛 (俳諧師)

浪花の人、名は敬明、字は子玄、歩々齋百堂と號す、堂島の米商、能書を以て聞ゆしといふ、文化頃

○谷風市郎右衛門 (力士)

大阪の人、初め月見山といふ、體量四十貫其容貌體格等初代谷風梶之助(讃岐)

に肖たるを以て、市人谷風と改名せしむ、梶之助と同時享保の人なり

○玉手棠洲 (畫工)

明治四年十月二十二日歿  
年七十七

浪花の人、畫を以て著る

○玉手梅洲 (畫工)

棠洲の長男、畫を父に學ぶ

○玉手菊洲 (畫工)

棠洲の二男、畫を父兄に學ぶ

○竹本染太夫 (音曲家)

明治三年四月六日歿  
年

二代目染太夫、大阪の人なり

○竹本咲太夫 (音曲家)

明治十年十一月歿  
年

法號、釋觀誠、六代目咲太夫なり

○竹本彌太夫 (音曲家)

下寺町 遊行寺

四代目彌太夫、法號、法嚴良壽禪定門、墓石に明治元年建之とあり

○竹本筆太夫 (音曲家)

文政十年二月 歿  
年

下寺町 遊行寺

○竹本咲太夫 (音曲家)

文化五年三月二日歿  
年

何代目なるや不詳、法號、釋淨薫  
下寺町 遊行寺

○竹本春太夫 (音曲家)

天明四年三月十九日歿  
年

初代春太夫、法號、實乾相説禪定門  
天王寺

○竹本春太夫 (音曲家)

寛政二年四月二十九日歿  
年

二代目春太夫、法號、釋教春  
天王寺

○竹本梶太夫 (音曲家)

文化十一年七月二十五日歿  
年

下寺町 遊行寺

法號、雲外轉生信士

○竹本住太夫 (音曲家)

天保八年十二月二十六日歿

下寺町 遊行寺

法號、入岳淨住信士

○竹本越前大椽 (音曲家)

安政二年六月七日歿

下寺町 遊行寺

名は藤原明卿、法號、淨圓義道信士

○竹本播磨大夫 (音曲家)

文政十二年十二月廿四日歿

下寺町 遊行寺

法號、釋淨入

○竹本政太夫 (音曲家)

文化八年七月十四日歿  
年五十九

下寺町 遊行寺

三代目政太夫、竹本播磨椽の門弟、俗稱利兵衛、法號、播翁院亮喜居士

○竹本君太夫 (音曲家)

寛政元年三月五日歿

下寺町 遊行寺

男徳齋直弟、法號、勝嶽了義信士

○竹本葉太夫 (音曲家)

寛政十一年正月六日歿

下寺町 遊行寺

法號、眞海如空信士、辭世、一ふしも臘月夜の名残かな

○竹本内匠太夫 (音曲家)

安政三年十月十二日歿

下寺町 遊行寺

五代目内匠太夫、法號、釋圓了永春

○竹本長尾太夫 (音曲家)

明治二十六年十二月廿九日歿

下寺町 遊行寺

二代目長尾太夫、法號、金獅院猛踰眞性居士

○竹本筆太夫 (音曲家)

享和元年七月二十一日歿

下寺町 遊行寺

何代目なるや未詳、法號、涼安樂全居士

○竹本中太夫 (音曲家)

文政八年八月十八日歿

下寺町 遊行寺

三代目中太夫、法號、音利淨響離現居士

○竹本組太夫 (音曲家)

下寺町 遊行寺

五代目組太夫、法號、壽鶴妙圓信士

○竹本染太夫 (音曲家)

文久 年十一月十七日歿

下寺町 遊行寺

四代目染太夫、法號、本就院成願覺道居士

○竹本大隅太夫 (音曲家)

元治元年十一月十三日歿

逢坂 一心寺

初代大隅太夫、法號、大隅軒至道曉雲禪士、妻、法號、延譽操壽真正禪尼

○竹本山城椽 (音曲家)

明治十四年十月二十二日歿

逢坂 一心寺

墓は自然石にして、表に竹本山城椽墓、釋壽元とあり

○高橋多一郎 (志士)

元治元年 月 日歿

天王寺元三大師前

常州水戸の藩士、金子教孝と共に同志廿四人を糾合し、井伊直弼を誅し、後幕吏の爲に斬らる、明治廿四年正四位を賜ふ、墓には三輪信善の撰文を刻す、傍に同莊左衛門を合葬す

○竹本住太夫 (音曲家)

天王寺

五代目住太夫、姓吉野氏、俗稱不詳、墓石に明治四十二年建とあり

○竹本長門太夫 (音曲家)

文久二年 月 日歿

天王寺 中之院

法號、長秀院仁融義傳禪定門、墓は門人筑前太夫建つる所なり

○田部 苔園 (詩家)

明治四十三年十月五日歿

阿部野墓地

名は密、苔園は其號なり、元彦根の藩士、廿三年大阪に來つて大阪鐵道會社長となる、小野湖山、巖谷一六等と交り、能く詩を賦す、男に田部芳氏あり、芳氏は法學博士にして大審院部長たり

○谷口 養安 (針術醫)

明治九年十月歿

谷町 梅實寺

大阪城入釘術醫葛野意庵の養子になる、法號、大慈院了爲日性信士

○竹澤彌七 (音曲家)

天王寺

義太夫三味線の始祖竹澤權右衛門の高弟藤四郎の門人、初代彌七



〔ち〕

●近松徳叟

(狂言作者)

文化七年八月廿三日歿  
年五十七

初名徳三、浪花坂町の娼家大榭屋の亭主なり、俳諧を善し、且戯場を好み、近松半二の門人となり歌舞妓狂言作者となる、終に健作者と成て著す所の傳奇數多あり

●長友松

(書家)

天明七年九月三日歿  
年七十

高津 圓妙寺

名は信治

●近松門左衛門

(淨瑠璃作者)

享保九年十一月廿二日歿  
年七十二

谷町寺町 法妙寺

姓は杉森、名は信盛、平安堂巢林子と號す、淨瑠璃作者の名家にして、古今無双の文者といふべし、尙久々知村廣濟寺にも墳墓あり、法號阿耨院穆矣日一具足居士

●近松半二

(淨瑠璃作者)

天明九年二月四日歿  
年九十九

ち

四八

浪花の人、儒家積以貫の男なり、戯作を好んで淨瑠璃作者となり、門左衛門の養子となり近松の氏を稱す、著す所の狂言數十種、おのゝ當りを取れり

●椿園主人 (戯作家)

浪花の人、俗稱姓名詳ならず、風流閑雅にして頗る小説の才あり、博學なるよし其鯛の翁草に賞せり、後年伊丹郷に住すといふ、著述の書、坂東忠義傳、兩劍奇偶、今古奇説、翁草、今古小説唐錦、女水滸傳等あり、明和安永頃の人

●長洲 (畫工)

浪花の人、光琳の畫風を學ぶ、安永天明頃の人

○頂譽上人 (僧)

専念寺の開山

上本町 専念寺

(一)

●月岡雪鼎 (畫工)

天明六年十二月歿  
年七十七

木寺村

名は昌信、信天翁と號す、丹下と稱す、江州の人浪花に來て藪町心齋橋に住す高田敬甫の門人にして淨世繪の名筆なり、後に法眼の官を賜ふ

●鶴澤探山 (畫工)

名は良信、浪花に住す、探幽門人

●津田越前 (刀工)

元和以來の名鍛冶にして井上眞改と雁行す

●鶴廼屋平佐丸 (狂歌師)

年八十

野里氏、谷町住、狂歌に巧にして世に鳴る、原攝州櫻井谷の住、老年大坂に移る

●都賀大江

名は庭鐘、字は公聲、大江海人と號す

●筒井尙堂

文政三年八月五日歿

一心寺

●土屋權兵衛 (相學家)

○鶴澤文藏 (音曲家)

天保五年九月廿三日歿  
年五十四

下寺町 遊行寺

初名仙藏、淨瑠璃三絃の名手なり、世に二世文藏と稱するは、即此人なり

○津田助直 (刀工)

助廣の門人、後女聲となる、孫太夫と稱し後近江守に拜す

○津田助廣 (刀工)

天和二年歿  
年四十六

二世助廣、攝津打出村の人、大阪に住す、世に角津田、九津田と稱す

○津田貞 (新聞記者)

茶臼山 雲水庵

明治初年頃の新聞記者なり

○津山檢校

天保七年三月六日歿

下寺町 遊行寺

○津山檢校

嘉永六年九月五日歿  
年五十六

下寺町 遊行寺

姫路の人、都倉氏、謚葉誓といふ

○鶴澤燕三 (音曲家)

天王寺内

元祖燕三、墓表には釋永淨、釋芳雲、裏には元治元歲甲子十月中旬建之とあり

○鶴澤高麗造 (音曲家)

天王寺内

二代目高麗造

○鶴澤清六 (音曲家)

天王寺内 東光院

初代清六、法號、釋清展、明治二十年建之とあり

〔て〕

●適水居士 (炮術家)

寶曆十二年正月五日歿  
年六十九

高津社東 禪林寺

炮術の名家にして俗稱中島太郎兵衛、法號曹源滴水居士、墓には貫齋中島先生之墓とあり

●鐵格子波丸 (狂歌師)

文化八年正月七日歿  
年

波丸は浪花の人立賣堀二丁目に住す、西浦氏狂名精長者と號す、狂歌を善す、混沌軒國丸の門人にして波丸は狂歌者流の名なり、活業鐵間屋なるにより表の格子を鐵にて造れり、故に鐵格子といふ、自詠の狂歌集および紀行の書、且かはごろも、小説葦芽草紙の著述あり、俗稱木津屋周藏

●鐵眼禪師 (僧)

天和二年三月廿二日歿  
年五十三

難波 瑞龍寺

名は道光、肥後の人、親鸞教徒の子たり、木庵の弟子となり瑞龍寺を開基す、事跡は行實錄、近世畸人傳等にくわしく見へたり

●徹山居士 (歌人)

文政十年四月十七日歿  
年六十三

達坂 一心寺

観古堂と號す、初名武者小路實純卿、法號實誠院殿高入徹山居士、和歌の達人なり

●寺井養拙 (書家)

正徳元年七月廿五日歿  
年七十五

下寺町 大泉坊

名は子共志津磨の門人にして、其書体すこふる異なり世に養拙流といふ、専ら招牌を書くを以て世に名高し

●條果亭栗標 (狂歌師)

寛政六年七月廿一日歿  
年六十八

清水寺北 泰聖寺

○天王寺長左衛門 (古銭家)

元禄  
年

歿

浪花の人、化蝶歌集を著す

[ 21 ]

●十時梅崖 (儒家)

文化元年正月廿五日歿  
年七十三

八丁目寺町 正念寺

名は賜、字は子羽、俗稱半藏、勢州長島侯の文學なり、書を陶齋に學といふ、著述の書大臨閣娛觀、願亭書畫譜、梅崖集抄等あり (歿日は正月二十三日、又年五十六と正念寺過去帳にあり)

●戸田旭山 (醫家)

明和六年二月廿八日歿  
年七十四

口繩坂 法巖寺

●獨嘯庵 (醫家)

明和三年三月五日歿  
年三十五

天王寺北東 藏鷹庵

姓富永氏、名は鳳、字朝陌、長州萩の人なり、山脇東洋門人にして醫術に精し著述の書吐方考、漫遊雜記、甲乙篇彙語、葆光祕錄等あり、○墓面に處士獨嘯庵墓と記し裏面に文を刻す

●富島瑞峯

正徳元年三月十二日歿  
年

濱村墓地

●鳥山松岳 (儒家)

安永五年三月廿六日歿

口繩坂 珊瑚寺

鳥山氏、名は宗成、字世章、俗稱宇内、越前の人、京都に来て宇野士朗に従ひ學ぶ、後浪花に住して教授す、續人物誌に寛政年中に歿すと有は非なりと云、著述の書名流春遊篇、批評唐絶句選詩式、垂菘館詩稿、崧岳文集等あり

●鳥山輔寛 (儒家)

正徳五年六月十一日歿

雄波 瑞龍寺

字は碩夫、鳴春と號す、俗稱左太夫、儒學の名家なり

●鳥山輔門 (儒家)

享保十四年九月十三日歿

雄波 瑞龍寺

儒學の名家にして香軒と號す、俗稱岡之助、香軒吟稿と題せし著述の書あり

●土肥積翠堂 (武術家)

寛政九年五月四日歿

天下茶屋村 安養寺

法號無端居士

●豊竹越前 (音曲家)

明和元年九月廿三日歿

天王寺

浪花南船場の産といふ、元祖竹本義太夫門人、後豊竹若太夫と改一派をひらく

故に竹本を西といひ、若太夫を東といふ、若太夫芝居の開祖なり、尤も淨璃瑠を多く作る、名梁塵軒といふ(墓は高津本經寺にあり、天王寺のは紀功碑なりん)○法號一音院眞覺隆演日重居士

●戸田玄泉堂

明和八年十一月十六日歿

生玉 法音寺

●富永仲基 (儒家)

下寺町 西照寺

始め田中氏、後富永に改む、名は省、字省吾、又桐江春叟、富春山人等の號あり、浪花尼ヶ崎町に住す、俗稱道明寺屋吉右衛門、醬油を作るを以て業とす、三宅萬年の門に入て儒道を學び、又佛學を好んで常に讀り、内典の學甚委し、著述の書出定後語、説蔽等あり、延享寛延中の人、不知卒年

●十時梅谷 (儒家)

八丁目寺町 正念寺

梅崖の男、名は順、字伯祐、長島侯の儒臣、不知卒年

●鳥飼宗慶 (書家)

鳥飼氏、攝州鳥飼の人、書法御家流より出て一家となす、世に鳥飼流といふ

●友淵宣卿

字伯明、院崑門人浪花の人

○豊竹麓太夫 (音曲家)

文政五年五月六日歿  
年八十九

道頓堀 自安寺

俗稱鍋屋宗左衛門、名は光曉浪花の人、豊竹駒太夫の門人頗る美音なり、寶曆七年豊竹越前椽座に於て祇園祭禮信仰記の淨瑠璃興行ありし時廿四歳にて出勤し、以來文化十四年に至る迄前後六十一年の間缺かさず數百番の淨瑠璃を勤めしは世に稀といふべし、法號覺種院從縁日走居士、墓は自安寺の外、谷町長久寺にもありといふ

○篤

扇 (俳諧師)

明治 年 月 日歿  
年七十

浪花の人、通稱八木方齋、産科醫を業とす、俳諧を能し別號を此花庵又春星堂と稱す

○豊竹若太夫 (音曲家)

明治三年 歿

下寺町 遊行寺

四代目若太夫、墓石には明治三年秋建之とあり

○豊澤廣助 (音曲家)

文政七年八月十六日歿

下寺町 遊行寺

元祖廣助、法號、釋廣齋

○豊竹八重太夫 (音曲家)

文政四年八月十日歿

下寺町 遊行寺

三代目八重太夫、法號、釋了玄

○豊澤廣助 (音曲家)

弘化三年十二月廿二日歿

下寺町 遊行寺

三代目廣助

○豊竹駒太夫 (音曲家)

天保五年七月 歿

下寺町 遊行寺

三代目駒太夫、法號、釋妙響

○豊竹靱太夫 (音曲家)

法號、釋了圓

下寺町 遊行寺

○豊竹巴太夫 (音曲家) 文政十一年十二月十一日歿 下寺町 遊行寺  
名は亮長、法號妙聲院國譽一道居士

○豊竹巴太夫 (音曲家) 天保六年四月二十四日歿 下寺町 遊行寺  
二代目巴太夫、法號、圓覺院聲願禪定門、辭世、一聲の夢はさめたかほとゝぎす

○豊澤團璃 (音曲家) 下寺町 遊行寺  
五代目竹本組太夫の男

○豊竹靱太夫 (音曲家) 遊坂 一心寺  
二代目靱太夫、墓石には、誠譽覺道禪定門、道譽智教禪定尼、明治十六年六月廿八日建之とあり

○豊竹湊太夫 (音曲家) 天王寺内 中之院  
墓石には、豊竹湊太夫、脇に音譽響流禪定門、梵譽智音禪定尼とあり

○豊竹此太夫 (音曲家) 天王寺

初代此太夫、後筑前少掾となる

○豊澤園平 (音曲家) 明治三十四年四月日歿 阿部野墓池  
年七十二  
本名加古仁平、播州寺家町の生、法名大達系通居士、古今獨歩の  
名人と評はる。



●奈河一洗

(狂言作者)

天保十三年二月三日歿  
年七十九

四寺町 大林寺

初め篤助と稱す、奈河七五三助の高弟なり、原は泉州一向宗派の僧たり、還俗して浪花に來りて狂言作者となる、後龜助と改め、又一洗を號す、或は金龜堂一泉ともいへり、著す所の狂言數番あり、老後京師東山の眞葛か原に茶店をひらき、一服一泉と稱す、法號釋達應といふ

●中井竹山

(儒家)

文化元年二月五日歿  
年七十五

八丁目寺町 誓願寺

發庵の男にして名は積善、字子慶、渾翁と號す、俗稱善太

●中井履軒

(儒家)

文化十四年二月十五日歿  
年八十二

八丁目寺町 誓願寺

中井竹山の舍弟にして名は積徳、字處叔、俗稱徳次、著述の書七經雕題略傳疑正史通語恤刑第議攘斥弊箚集等あり

●並木正三

(狂言作者)

安永二年二月十七日歿  
年四十四

千日前 法善寺

正三は幼名久太郎といふ、並木宗助の門人にして歌舞妓狂言作者の名人なり、生涯八十餘番の狂言に委く妙をわらはす、浪花道頓堀宗右衛門町に住す、俗稱高砂屋平右衛門といふ、菓子屋なり、著述の狂言數多あり、墓表に南無三寶正三之墓と記せり、法號常譽遠雪

●中井方明 (方位家)

天保元年閏三月十五日歿  
年四十九

一心寺

●長雄旭雲 (書家)

文政十一年四月十二日歿  
年五十五

天王寺東 國分寺

書家の名譽、長雄流三代目にして俗稱を半造といふ

●中井抽園 (儒家)

天保五年五月廿一日歿  
年五十三

八丁目寺町 誓願寺

●中村白翁 (相學家)

明和三年五月廿三日歿  
年六十四

下寺町 良運院

俗稱加右衛門、近代無双觀相の名家なり、六如上人の放生功德集に白翁が觀相に妙を顯はせし隱徳の奇話一條を記せり、周防町堺筋に住す、姓は藤原氏、其先江州葛川中村に住す

●長澤蘆雪 (書工)

寛政十一年六月八日歿  
年

東高津 直指院

圓山應舉門人、山城淀の人

●中江岷山 (儒家)

享保十二年六月十日歿  
年七十二

逢坂 一心寺

儒學の名家なり、伊賀の人俗稱平八、著述の書理氣辨論、四書辨論等あり

●中井登庵 (儒家)

寶曆八年六月十七日歿  
年六十六

八丁目寺町 誓願寺

名は誠之、字は叙貴、俗稱忠藏、播州龍野の人、浪花の學校に住す、著述の書不同語、登庵雜記、貼範先生遺集あり、○墓面に登庵中井先生之墓と記し、尙五井蘭洲の撰文を刻す、書は三宅春樓の筆なり

●中井藍江 (畫工)

天保元年七月廿二日歿  
年六十五

生玉 覺圓院

名は直、字子養、關月門人にして雪舟牧溪及び李龍眠をしとふて自ら一家を成す、人物山水に長ず、實に近世の名人なり

●永井如瓶 (書家)

享保十六年七月廿八日歿  
年七十一

下寺町 源聖寺

名は喜、字政純如瓶子と號し、走帆堂といふ、和氣由貞の門人にして書家の名譽なり、著述の書、三徳筆抄、走帆堂筆帖、庭訓往來諺解等あり

●中井蕉園 (儒家)

名は會弘、字伯毅俗稱圓藏竹山の長子なり、著述の書、仙坡遺稿、一夜十賦等あり

享和三年八月四日歿  
年三十七

八丁目寺町 誓願寺

●長山孔寅 (畫工)

孔寅字士亮、紅園と號す、平野町中橋に住す、頓着物語著す、鶴廼屋の門に入り狂歌を能す、狂名三條茂佐彦

享和二年九月二十七日歿  
年八十五

天満寺町

●南嶺子 (國學家)

姓は多田氏、名は義俊、字は公實、又桂秋齋とも稱、浪花の人、俗稱兵部といふ業を壺井鶴翁に受て専ら國學故實者と唱ふ、博識にして著述の書あまたあり

寛政三年九月二十七日歿  
年五十三

京師に於て歿するにより  
二條川東本町寺に墓あり

●並木宗助 (淨瑠璃作者)

浪花の人、淨瑠璃東もの豊竹座の作者にして、著述する處清和源氏十五段、攝

寛延二年九月  
年五十七 歿

津國長柄人杜、和田合戦女舞鶴、釜淵双級巴、一谷嫩軍記等いづれも妙作なり  
寛延年間に歿

●並木丈助 (淨瑠璃作者)

浪花の人なり、宗助門人にて淨瑠璃の作者なり、著す所那須與市四海硯をはしめ、苜蓿桑門筑紫轡、姿競出入湊、東鑑御狩卷、攝州渡邊橋供養、八重霞浪花演萩等なり、就中此八重霞は寛延二年己三月十八日天満砂原のかしくど、長堀の情死に神崎の大喧嘩、この三ッ同日の事なりしを直に作り、廿日外題を出し廿六日に初日を出して古今の大當にて同年七月の末まで興行せしは此人の手がらといふべし、尙淨瑠璃の作のみならず、歌舞妓狂言の作をもなせり

●並木永助 (淨瑠璃作者)

浪花の人宗助門人にして丈助同時の作者なり、著す所相馬太郎李文談、天智天苜蓿庵、岸姫松轡鑑等の淨瑠璃なり、且歌舞妓の作をもなせり

●長山孔直 (畫工)

孔寅門人にして後竹外と改む

文久二年正月二日歿  
年六十

●並木五瓶 (狂言作者)

文化五年二月二日歿  
年六十三

天王寺西門前

並木宗助の門葉にて天明以來歌舞妓狂言作者なり、初名は吾八といひ後に五瓶と改む、浪花の狂言作者にして著すところの狂言類凡百部におよぶ、後東都に下りて江戸狂言を京攝の風に直し、名を高くせり、近來作者の達人なり○行年一に六十二といふ、辭世「梅はさく我は散りゆく如月や」江戸淺草金龜山の奥山に五瓶が狂言塚あり、法號彩嶽院英藻

○中村芝翫 (俳優)

天保九年七月廿五日歿  
年六十一

西新津 正法寺

三代目中村歌右衛門、俳名を芝翫後に梅玉といひ、別號を百戲園と稱す、屋號加賀屋、俗稱市兵衛大阪の人、近世梨園の名人なり、墓面に歌唄院宗讀日徳信士と記し、裏面に行狀、右側に歿年、左側に、辭世、南無さらば妙法蓮華けふ限り、梅玉と刻す

○並河樺翁 (儒家)

明治十二年二月六日歿  
年八十四

八丁目寺町 誓願寺

中井家に次ぎて懷徳書院の教授をなす、墓面には、隸書にて樺翁並河先生墓と刻す

○奈河七五三助 (狂言作者)

文化十一年十月廿日歿  
年六十一

今宮 海泉寺

奈河龜助門人、通稱金次郎、洗口と號す

○奈河晴助 (狂言作者)

文化九年正月十九日歿  
年四十五

四軒町 淨圓寺

奈河龜助門人、京師の人通稱宮島屋喜兵衛、後豊晴助と改名す

○中村富士郎 (俳優)

天明六年八月三日歿  
年六十八

一心寺

芳澤わやめ三男、中村新五郎の養子となる、女形の妙手なり、家號天王寺屋、俳名慶子翠嶺舎と號す、畫をも描く、慶子畫譜あり

○中村富士郎 (俳優)

安政二年二月十三日歿  
年七十

正法寺

初名市川熊太郎、後三代目歌右衛門弟となり中村松江と稱す、天保四年二代目中村富士郎と改名す、俳名慶子

○中村のしほ (俳優)

寛政十二年三月廿日歿  
年四十二

藥王寺

初名生島金藏、後元祖富士郎の孫分となり、二代目のしほを嗣ぐ、俳名を蘭耕

といふ

○中村のしほ (俳優)

天保二年四月十三日歿  
年五十一

薬王寺

初名中村金藏、二代目の男、慶守と號す、享和二年十月三代目を嗣ぎのしほとなる

○中村歌右衛門 (俳優)

寛政三年十月廿九日歿  
年七十八

中寺町 淨國寺

中村源十郎門弟歌之助、延享四年中村歌右衛門と改名す、家號加賀屋、俳名を一先といふ

○中村歌右衛門 (俳優)

嘉永五年二月十七日歿  
年五十五

中寺町 淨國寺

幼名吉太郎江戸下谷の人、藤間勘十郎の養子となり歌右衛門の門弟となる、天保七年四代目を嗣ぐ、俳名を翫雀又魁香舎といふ、法號歌成院翫雀日光信士

○中村翫雀 (俳優)

萬延元年正月七日歿  
年二十八

中寺町 淨國寺

菊屋善兵衛の男、初名市村橋藏、後四代目歌右衛門の養子となり、嘉永五年二代目翫雀を嗣ぐ

○中山善樂 (俳優)

文政十年十月廿五日歿  
年六十七

北久寶寺町 玉泉寺

○中村芝猿 (俳優)

文政十二年十一月廿日歿  
年四十

中寺町 妙徳寺

幼名熊五郎片岡小六と改め、更に芝猿と稱す、俳名を芝縁といふ

○中村百花 (俳優)

嘉永六年二月十五日歿  
年九十

島ノ内 萬福寺

○中井芳瀧 (畫工)

明治三十二年六月二十八日歿  
年五十九

堺 南宗寺

大阪の人、俗稱恒次郎、一養亭と號し、別號を養水又坂田舎居と稱す、中島芳梅の門人、似顔繪及び錦繪等を描く、法號樂邦軒靜芳居士

○内藤積雨 (茶家)

浪花の人、天然宗左の門人、茶道を能す

○中谷顧山 (古銭家)

な

六〇

浪花の人、無齋と號す、孔方圖鑑、珍貨孔方鑑の著あり、これ本邦に於ける  
錢書刻本の先祖といふ、享保頃の人

○中野梧一 (豪商)

明治十三年 月 日歿

大阪の豪商にして、文武に通じ、天文地理に委し、元幕府の旗下なり、維新の  
際榎本の幕下に在つて働さ爲に獄に下る、後大阪商法會議所及び硫酸製造所を  
創立す、藤田傳三郎等と共に紙幣製造の嫌疑を受く、明治十三年自殺す

○中井柳樓 (儒家)

天保十一年 月 日歿  
年六十九

八丁目寺町 誓願寺

竹山の第二子、蕉園の弟、名は會縮、字は子反、柳樓は其號なり、蕉園の歿後  
懷徳書院に入つて院長となる

○中村雀右衛門 (俳優)

下寺町 遊行寺

二代目雀右衛門、法號、釋道純

○中村歌六 (俳優)

安政六年七月一日歿

茶臼山 雲水寺

初め中村もしほと云ひ、梅玉の門弟となりて歌六と改め家名を播磨屋、俳名を  
梅枝といふ、法號昇雲院釋緣三

○中井竹庵 (儒家)

萬治三年十月十一日歿  
年七十二

上本町 誓願寺

中井登庵の祖先、諱養堅、字延齋、教雲先生と諡す、初め黒田如水に仕へ、後  
大阪に来る

○中村玉七 (俳優)

明治四十三年九月 日歿

中寺町 正法寺

大阪の俳優なり、辭世「借ひとりたつねて來たり秋の暮」

○中井養僊 (儒家)

正徳三年八月三日歿  
年八十六

上本町 誓願寺

諱昌倫、字養僊、井上丁心の男、後中井竹庵に養はる、諡して好生先生といふ

〔に〕

●西山宗因 (俳諧師)

天和二年三月廿八日歿  
年七十三

天満西寺町 西福寺

西山氏は一幽と號す、又梅翁或は西翁と號す、浪花天満の人、連歌を以て俳諧に通じ檀林一風を興立す實に一流の鼻祖なりと云、家書數多あり、○法號實省院圓齊宗因居士、行年一に七十八と云ふ、墓表には實省宗因法師觀光昌察處士とありとぞ

●西澤一風 (戲作家)

享保十六年五月廿四日歿  
年六十七

下寺町 大蓮寺

俗稱正本屋九左衛門、浪花心齋橋南四丁目に住す、書林板元なり、性得俳諧をこのみ、淨瑠璃の戲作を樂みとす、著すところの淨瑠璃數十番あり、就中北條時頼記は、豊竹座にて二ヶ年の間興行し、近松が國性爺に肩をならべたり、法號常譽貞寂禪定門と稱す、紀海音、田中千柳、並木宗助等は此人の門弟なり、辭世、ちり行や風に常盤の木葉雨

●新山退甫 (相學家)

安永四年七月廿八日歿  
年五十三

谷町南 天慈寺

に

六二

●丹羽桃溪 (畫工)

文政五年十月十五日歿  
年六十三

生玉 圓通寺

名元國、字は伯照、蒔關月門人にして畫に巧なり、諸國の名所圖會を多く畫けり、浪花島之内木挽中之町に住す、俗稱大黒屋喜兵衛、且狂歌を好みて波丸の門人となり、運道と號す

●耳鳥齋 (畫工)

寛政五年

浪花の人、京町堀に住す、俗稱松屋平三郎といふ、初酒造家後骨董舖を業とす鳥羽僧正古潤の間を學びて狂畫に達し大に雅致あり一家をなす、且滑稽の才ありて戯作をもなし、義太夫のちやり淨瑠璃の名人なり

●錦文流 (戯作家)

浪花に住す、座塵の社邊に住すといふ、俗稱審かならず専ら戯作をなし、又淨瑠璃をも多作す、錦頂子といふ

○西澤一鳳 (狂言作者)

嘉永五年十二月廿二日歿  
年五十一

下寺町 大蓮寺

通稱九郎右衛門又理助、號綺語堂、一鳳又李叟と稱す浪花の人、戯曲作者なり

○西澤眞雛 (狂言作者)

天保十一年六月廿九日歿  
年四十九

下寺町 大蓮寺

通稱正本屋利兵衛、鳳堂又眞雛と號す

○新島襄 (教育家)

明治二十三年一月廿三日歿  
年四十八

天王寺

幼名七五三太、上州安中の人、安政中蘭學測量航海術を修め、元治元年支那及米國に渡航し、明治七年歸朝、同志舎を創立す、其名海内に鳴る、明治廿三年病の爲め相州大磯の客舎に逝く

○一東生梯 (醫家)

安政七年二月二十九日歿  
年五十九

天滿寺町 九品寺

字は士仁、名は正榮、俗稱大藏、乾々齋と別號す、筑前粕屋郡の人、世々眼科醫を以て業とす、夙に護國の學に志し、江上蒼洲に就て學ぶ、墓面には生梯一東先生墓と題し、藤澤東暎の文を刻す

○西川伊三郎 (傀儡師)

天明五年十一月十二日歿  
年六十二

大阪の人、傀儡師の名家なり、曾て禁裏に召されて技を演じ、裏菊に一文字の紋章を賜る、後又二條家より二の字を賜り、名を冠二と改む



○西島是平 (天文家)  
志摩國鳥羽の人

上本町 西光院

〔れ〕

○根津四郎右衛門 (俠客)

寶曆四年五月十一日歿

年六十八

梅田墓地

本名は住吉屋四郎右衛門、北神明前伏見屋敷に住す、俠客を以て聞ゆ、戯曲「黒船出入湊」中、黒船忠右衛門とあるは、即ち此四郎右衛門が事なり

○熱の四郎兵衛 (俠客)

浪花の人、仲業を業とす、性强氣、夙に任俠を以て著はる

●後鐵格子獨醉（狂歌師）

西浦周藏、狂歌及詩を善す、立賣堀二丁目

○野口道悦（蘭法醫）

寶曆四年十月七日歿  
年四十四

天浦西寺町

蘭法の名醫にして友山と號す、大阪定御城入醫師たり、法號淨眼歡喜居士  
筑前國岡の人、野口太右衛門、河内八尾に移住し醫を業とし、後野口友山と改稱す、明和七年十一月七十  
餘歳にて歿す、法號宇儂齋友山居士、墓は八尾淨光寺にあり

○野口震齋（蘭法醫）

安永二年八月二十一日歿

谷町

海寶寺

野口道悦の嫡子にして同く道悦と稱す、大阪野口氏二代目なり

〔は〕

●忘筌堂竹探 (書家)

享保十五年正月八日歿  
年五十八

谷町寺町 重願寺

竹探は秦氏、名は茂包と稱す、浪花の人、書を能す、其妻も亦書を能すといふ

●坂東由輔 (武術家)

文化八年二月十三日歿

西天滿 蟠龍寺

武術家にして鐵腸軒と號す、法號眞岳實道居士

●八千房屋鳥 (俳諧師)

文政十三年二月廿四日歿  
年七十六

難波 瑞龍寺

五竹庵木僊の門人なり、俳諧に名を得たり、作州勝山の人なり

●林 淡 齋 (儒家)

寛政三年三月二日歿  
年八十三

口繩坂 太平寺

儒家にして醫業を兼たり、著述の書小學俗解七卷ありといふ

●間 長 涯 (天文家)

文化十三年三月廿四日歿  
年六十一

茶白山南 邦福寺

間氏俗稱十一屋五郎兵衛、浪花長堀に住す、天文學を麻田先生に受、又算術を

阪新藏に學ぶ、天文家の名譽なり

●早野仰齋 (儒家)

寛政二年三月廿八日歿  
年四十五

生玉 隆專寺

名は辨士、字士譽、仰齋と號す、俗稱永助、浪華に住す、儒學の名家なり

●早野反求 (儒家)

天保二年三月廿九日歿

生玉 隆專寺

早野仰齋の男なり、名は正巳、字は士發、反堂と號す、俗稱義造、儒學の家を嗣く、南堀江吉野屋町に住す

●林一鳥 (醫家)

明和五年四月廿一日歿  
年八十九

口繩坂 春陽軒

醫術の名家にして、此翁の事跡は望月庵門の著せし又玄餘草に委しく著述の書客中集あり

●橋本宗吉 (醫家)

天保七年五月朔日歿  
年七十六

八丁目寺町 念佛寺

橋本氏は蘭學を大槻先生に受く、其名世に高し、名は鄭字は伯幹、俗稱曹吉、著述の書西洋醫事集成寶函あり、塩町心齋橋東に住す

●橋本貞元 (儒家)

天明四年五月七日歿  
年四十六

天滿東寺町 栗東寺

橋本氏は菅甘谷の門人にして詩文に長ず、儒家にて醫業を兼る、著述の書葛氏漫草、小園摘稿等あり、○墓石には岡公翼の文を刻す

●林幽甫 (畫家)

明和七年五月十日歿

田島町 妙壽寺

浪花に住す、號鸞庵

●橋本稻彦 (國學家)

文化六年六月十五日歿  
年二十九

口繩坂 梅舊院

橋本氏は中臺と號す、又琴之屋といふ、藝州廣島の人、幼年より國學を好み、本居翁の門に入て其業を大成す、浪花に住し壯年にして歿す、實に顔淵の天死にひとしと世人おしめり、著述の書校正新撰姓氏錄、紫文消息、萬葉梯、古今假名遣辯讀、國意考等あり、此餘刻ならざる著述尙多し

●林幽篤 (畫工)

文政二年七月廿三日歿

田島町 妙壽寺

●八千坊舍持 (俳諧師)

安永四年八月三日歿  
年七十一

難波 瑞龍寺

半時庵淡々の門人にして俳諧の名家なり、姓は堀氏、深茂亭と號す

●春田横塘 (儒家)

文政十一年八月九日歿  
年六十一

口繩坂 淨春寺

名走、字有則、儒を以て業とす、當代の名譽なり

●林 呐 庵 (茶家)

文化元年八月廿六日歿  
年六十八

八丁目寺町 妙中寺

●芭 蕉 堂 (俳諧師)

元禄七年十月十二日歿  
年五十三

口繩坂梅齋院離波瑞竜寺下  
寺町遊行寺天王寺北ノ門外

桃青松尾氏、伊賀國上野人、風蘿坊と號し、芭蕉翁と稱す、俗稱甚七郎、業を北村季吟に受て俳諧正風躰一家をなす、○天王寺に在る墓には、芭蕉翁之墓と題し、裏に龍邱龔撰の銘を刻す

●萩原 廣道 (和學家)

文久三年十二月三日歿  
年四十九

浦江 妙壽寺

姓平氏、字菽沼、通稱鹿左衛門、著述菅原氏物語評釋、本學提綱、天企波係辭辨、心能種、其他十數書あり、○行年一に五十一と云ふ

●濱 松 歌 國 (狂言作者)

文化十年十二月十九日歿  
年五十二

谷町 天龍寺

浪花の人、俗稱布屋清兵衛、島の内布袋町に住す、戲作の書多し、原來歌舞妓の事に委く、終に狂言作者となる、或は氏助と號し、颯々亭南水主人と稱す、○法號花鳥歌國信士

●濱 田 杏 堂 (醫師)

文化十一年十二月廿二日歿  
年四十九

高津 法雲寺

名は世憲、字は希菴、浪花の人、醫術に達し、畫を福原五岳に學びて其名世に高し、且行書を能す、近代の名家なり

●長 谷 川 紀 隆

俗稱十郎左衛門

享保十六年十二月廿九日歿  
年

八丁目寺町 妙中寺

●林 文 坡 (畫工)

弘化二年歿  
年六十

名は直之、方洲と號す、初關月に畫を學び、後藍江を師とす

●半 時 庵 淡 々 (俳諧師)

寶曆十一年十一月二日歿  
年八十八

難波村 瑞龍寺

松本氏、浪花の人、一に森三揚と稱す、其角の門人なり、後に詞宗となる、自號

して勃窣翁と稱す、俳諧の名家にして當時の一風流、英名都下に鳴る、家書多し  
○墓面に高源朝水居士墓、傍に寶曆十一年辛巳冬十一月二日卒、背に半時庵淡々得齡八十八と刻す、辭世、わさ霜や杖で畫がさし不二の山

○放雀庵長齋 (俳諧師)

文政七年四月十九日歿  
年六十八

東天滿 蓮興寺

俗稱倉敷作右衛門、浪花江戸堀の人、俳諧の名家なり、晚年北野に閑居す、法號修料院長齋日饗居士

○坂東彦三郎 (俳優)

明治十年十月十三日歿  
年四十六

淨運寺

四代目彦三郎の養子、初名鶴之助といひ、安政三年五代目を嗣ぎて彦三郎となる、俳名を薪水といふ

○坂東壽太郎 (俳優)

天保十一年十二月廿四日歿  
年七十二

中寺町 本覺寺

力士江戸ヶ崎小三郎の男、坂東岩五郎の養子となる、家號之鳴田屋、號を巖柳と稱す

○春田古處 (儒家)

明治十二年八月十七日歿  
年七十四

口繩坂 淨春寺

春田横塘の男、儒を以て業とす

○長谷川貞信 (畫工)

明治十二年三月廿八日歿  
年七十一

口繩坂上 天鷲寺

大阪の人、俗稱文吉後徳兵衛、上田公長門人、後浮世繪師となる、別號を信天翁、南窓櫻、雪花園等と稱す、法號、壽徳院潤生諦忍善士

○長谷川小信 (畫工)

明治十九年七月十六日歿  
年二十七

口繩坂上 天鷲寺

貞信の次男 (長男徳太郎初め小信と稱し、後二代目貞信を名乗る、現存)、俗稱貞吉、畫を父に學び繪本類を描く (二代目貞信の長男信太郎三代目小信を名乗りて現存す)

○林 基 春 (畫工)

明治三十六年九月六日歿  
年四十六

大阪天滿の人、俗稱捨藏、鈴木蓄齋の門人、法號釋法春

○白山梅弟 (俳諧師)

大阪の人、通稱與三郎、花雨庵と別號す、弘化頃

○放駒長吉 (力士)

大阪天満の人、頻る任侠に富む、曾て濡髪長五郎と闘争し、相撃て斃る

○濱 漁 柳 (狂言作者)

大阪の人、姓は塩野、名は村助、白頭丸、柳漁庵、惠陽又驛亭駒人等の數號を有す

○坂東壽太郎 (俳優)

初代壽太郎、法號、本性院宗貞日壽信士

下寺町 遊行寺

○伴 存 誠 (儒家)

字忠進、久留米の人、懷徳堂の書生、墓誌に伊藤東涯の撰文を刻す

上本町 誓願寺

○春名柳窓 (和蘭學者)

文政十二年正月朔日歿、天王寺東門外 清壽院  
名は方雄、字は一碧、鳥取の人、大阪に來りて蘭學教授の門を開く

○濱 和 助 (好古家)

明治四十四年一月十九日歿、柱本 光樂寺  
攝津國三嶋郡三ヶ牧村に生れ、大阪淡路町質業濱分家を繼ぐ、本業の傍ら古典古文書を蒐集して愛讀し、史蹟傳系博通の開わたり、胃癌に罹りて歿す、舊里先塋の側に葬る、雅號真砂、法名釋貞往

〔ひ〕

●平井東隆 (卜筮家)

文政三年六月十八日歿

北野

寒山寺

眞勢門人、兵庫と稱す

●平賀中南 (儒家)

茶臼山南 邦福寺

俗稱宗右衛門、廣島の人にして浪花に出て教授す、嘗て松平伊豆侯より好古先生  
の號を賜る、實に篤行の君子といふべし、不知卒年

●尾藤二洲 (儒家)

名は肇、字は志尹、長佐と稱す、浪花の人官に仕ふ

○廣瀬旭莊 (詩人)

文久三年八月十七日歿  
年五十七

邦福寺

名は謙、字は吉甫別號を梅墩といふ、豊後の人、大阪に住す、淡窓の弟にして  
龜井昱に學ぶ、著述の書高青邱詩抄、梅墩詩鈔、旭莊小橋等數種あり、墓面  
は隸書にて旭莊廣瀬先生墓と刻し、裏面に歿年を記す



〔ふ〕

●藤村正齋

號東堂

寶曆五年二月七日歿  
年七十二

一心寺

●不二庵二柳

(俳諧師)

享和三年三月廿八日歿  
年八十一

口繩坂 梅舊院

又桃居とも曰、希因の門人にして近來俳諧の名家なり

●藤吉木石

寛政九年四月八日歿  
年六十二

上福島 久安寺

藤吉氏は東都の人、嘗て攝州有馬温泉に赴んとして浪花に來て頓に歿す、著述の書樂只園集あり

●藤村芳隆

元文五年五月十一日歿  
年六十五

一心寺

●藤村正員

(茶家)

享保十八年七月廿七日歿  
年八十四

蓬坂 一心寺

又正隱とも書す、松杉堂蘭室と號す、又風外庵と稱す、庸軒の二男、或は弟と

いふ、浪花に住し茶道の業を父庸軒に受け、世に開ゆ

●藤野一郎 (書家)

天保二年九月三日歿  
年六十七

上福島 淨祐寺

初名は環中、日蓮宗の僧たり、後に皈依俗す、近代書の名家なり

●古林見宜 (醫家)

明暦三年九月十七日歿  
年七十九

高津 禪林寺

名は正温、桂庵壽仙坊等の號あり、播州の人浪花聚樂町に住す、近代の名醫にして浪花中興の醫家とす、門人松下見林の著す見宜翁傳に委く見ゆたり

●藤井三淳 (醫家)

享保三年十一月十三日歿  
年七十六

豊島郡寺内村 観音寺

初め尼崎青山侯に仕ふ、博く經史に通し篤く理學を好む、終に官を辭して南郷石蓮寺村に隠れ居す、常に醫を以て業とし、病者に藥を與ふれども報を責す、郷民窮する時は財をわかつて是を賑はしめ、愛憐慈愍はとんと厚し、聞ものごとくく服して父母のごとくす、然れども貴人の家より招くといへども多病を以て往かず

●福原五岳 (畫工)

寛政十一年十一月十七日歿  
年七十

下寺町 源聖寺

名は元素、字子綯、俗稱大助、備後の人にして浪花に住す、當時畫工の名家なり、大雅堂を師とす

●淵上旭江 (畫工)

●福原東岳

名は棄之、字は舉旃、御靈裏門に住す

●藤村新吾

名藝、字九曉、禪山と號す、上本町三丁目に住す

●藤原家隆 (歌人)

嘉禎三年四月九日歿  
年八十

愛染堂後方 夕日ヶ岡

中納言光隆の子和歌を藤原俊成に學ぶ、幼にして穎敏頗る奇才あり、俊成曰く此子必ず歌聖とならんと、後果して和歌を以て著れ、藤原定家と並び稱せらるゝに至る、後鳥羽帝才を愛し元久中詔して新古今和歌集を撰ばしむ、後和歌を以て宮内卿に任せられ從二位に至る、嘉禎二年病を以て薙髮し名を佛性と改む

墓は夕日か岡舊榎の松の下に在り、幅三尺許高さ六尺餘、享保六年九月秋野坊法印鑑順が建つる處にして、安井の門主大僧正道恕の文を刻す、側に夕陽庵あり、卿が舊居の跡なりといふ、詳しくは攝津名所圖會に就て見るべし

○古林正桂 (醫家)

明和元年十二月廿三日歿  
年七十一

中寺町 禪林寺

家世々醫を以て業とす、見宜堂といふ、墓面に見宜堂古林正桂之墓と刻す

○藤澤東畝 (儒家)

元治元年十二月十六日歿  
年七十二

生玉寺町 齡延寺

名は甫、字は元發、別號を泊園といふ、讃岐の人大阪瓦町に住す、當時儒家の名譽なり、墓面に、東畝藤澤先生墓と記し、裏に門人中谷輝の文を刻す

○藤井藍田 (儒家)

茶臼山 雲水庵

廣瀬旭莊門人、浪花の人

○物外 (僧)

慶應三年十一月廿五日歿  
年

中寺町 禪林寺

俗に拳骨和尚と呼ぶ、墓は自然石にして表に物外不遷之墓と記し、裏に歿年月

を刻す

○藤田恭庵 (醫)

大阪の人、名は爵、字は蔚宗、別號を淨篤と稱す

〔八〕

●瓢

六 (俳諧師)

明治十三年 月 日 癸  
年七十五

大阪の人、通稱辻鼻彌助、加茂屋と稱す、別號を神吐屑と云ひ後翁堂と改む

〔ほ〕

●堀 衆 樂

寶曆五年二月十五日歿  
年八十

下寺町

大泉坊

●堀田自諾 (柔術家)

享保九年三月廿二日歿  
年六十七

西天滿

本傳寺

名は頼庸、俗稱佐右衛門、柔術に名あり、墓碑には上條公美の撰する堀田氏の  
行狀を刻せり

●牡丹花宵柏 (連歌師)

大永七年四月八日歿  
年八十五

池田

大廣寺

姓は源氏、名は宵柏、夢庵と號す、初め池田に住し後左海に閑居す、古今傳授  
の人、世に埤流と稱す、くわしくは扶桑隱逸傳に見へたり、連歌の達人なり

●保科加一郎 (卜筮家)

文政二年六月九日歿  
年五十五

口繩坂

淨春寺

眞勢中州門人浪花の人鬮體亭と號す、墓は門人中岡春滿の建つる所なりといふ

●穗積以貫 (儒家)

明和六年八月廿一日歿  
年七十八

生玉

冷雲寺

能改齋と號す、俗稱伊助、儒學の名家なり、著述の書唐土王代一覽、經學要字箋、世說新語補解、韻鏡反切捷徑指南、四書國字解、五經國字解、世說國字解等あり

●細合斗南 (儒家)

享和三年十月十六日歿  
年七十七

南田邊 法樂寺

名は方明、字は麗玉、又學半齋、又太乙真人と號す、甘谷の門人にして儒學に高名あり、著述の書三十三部、書目録、續人物誌に詳なり

●牧亭笛丸 (狂歌師)

安政三年四月歿

狂歌巧にして鐵格子波丸の門人なり、後鬼柱亭力丸の文臺を預る

●本莊宗敬 (茶家)

文化二年閏八月十二日歿  
年七十七

名は正路、浪花の人、一に宗慶に作る、茶法を河野宗鷗に受る

○鳳 潭 (僧)

元文三年二月廿六日歿  
年八十五

釋氏名は潛、字は鳳潭、攝州西成郡難波村の人、鐵眼禪師に従ひて禪學を修む

後華嚴宗を興さんと謀り洛西に華嚴寺を建立す、博學にして生涯の著述五十餘部に及ぶ

○本多忠朝 (武人)

元和元年五月七日歿  
年三十四

一心寺

本多忠勝の二男出雲守、大阪の戦に従者二十餘人と天王寺口に向ひて戦死す、法號三光院殿岸譽良玄居士、委しくは馬琴の「羈旅漫錄」にあり

○布袋市右衛門 (俠客)

元祿十四年六月七日歿  
年二十九

大阪天滿の人、俠客を以て聞ゆ、即ち浪花五人男の一人なり、元祿十四年梟首に處せらる

〔ま〕

●真瀬中州 (易學家)

文化十四年二月二日歿  
年六十四

北野 寒山寺

真瀬氏、名達富、字は發貴、俗稱彦右衛門、尾州の人、著す所の易學の書ははくあり、近代易學者の一人にして、占筮の妙神の如しといへり

●前川有隣

安永九年五月朔日歿  
年五十四

高津 大雲寺

●松岡良助 (算術家)

浪花御城同心にして算術の達人なり、算術稽古大全を著述す、文化の末年歿す  
年七十餘

●松浦大麓 (醫家)

醫を業とし詩文に達す

安政 年九月歿

●前川由平 (俳諧師)

井原西鶴の門人俳諧に達す、後年釋門に入て自入と號す、攝州北野村に歿す寶永中

●松花屋錦之 (俳諧師)

●松井羅州 (卜筮家)

文政五年二月歿  
年七十二

浪花の人、名は暉、字は寶黃、俗稱七郎、博通の聞へあり

●松本觀山 (畫工)

名春清、字子朗、月溪の門人

○政田李角 (俳諧師)

文化十三年七月廿六日歿  
年三十

幼名清吉後良藏と改む、浪花の人、五竹庵の門人なり

○籬 (遊女)

大阪新町の遊女、性音曲を好み小唄に妙なり、萬治中一派を謳ひ出す、世人是

れを籬節と稱す

○松川半山 (畫工)

大阪道修町の人、翠榮堂と號す、名所圖及び浮世繪本を多く描けり

○前川虛舟 (彫工)

大阪の人、名は利涉、能く細字を刻す、一寸方石を以て獨樂園記を刻み年月姓名を記す、頼春水歎じて曰く、絶技無双、獨惜ひ世に之を視るの目なきをと

○眞子芳庵 (醫)

安永十年二月歿  
年五十

谷町 海寶寺

二代目眞子芳庵なり、法號明惣院温恭日忠信士



〔み〕

●三好正慶 (名婦)

文化三年五月二日歿  
年七十八

木津 幽泉寺

浪花島の内茂左衛門木津屋某の養女、雪と稱す、或云町とも、智恵かしこく性質俠氣男子に勝れり、芝居狂言に作りて奴の小萬と號してより、終に世人これを奴の小萬と呼べり、山陽遺稿、南水漫遊、明和飛日記に委く見へたり、尤山陽遺稿に行年七十五にして歿すとあるは非なり、文化元年子正月の詠に七十六とあり

●三村崑山 (儒家)

文政八年六月十九日歿  
年六十四

萬福寺

儒家にして名は其原、俗稱貞造

●三宅萬年 (儒家)

享保十五年七月廿六日歿  
年六十六

河内 神光寺

名は正字は石庵、京師の入浪花に住す、儒家の名家なり續近世畸人傳に出たり

●水野南北 (相學家)

天保五年十一月十一日歿  
年七十八

天滿東寺町 法輪寺

近來相學の名家なり、著述の書南北相法、同後篇、相法修身錄等あり、幼名熊吉、浪花阿波座の人、歿後門人議つて五尺有餘の不動明王の石像を建て墓碑に代と云ふ

●水之谷雄琴

名君竜、俗稱庄助備中の人浪花に住す、中華龜卜考、日本龜卜考此餘數種あり

●三日坊雛丸 (狂歌師)

●宮本君山 (畫工)

名政理、字伯風、備中

●水走平岡 (醫家)

河州の平岡人醫術に達す、著述の書方苑診視要訣、病徵方義等あり

●三好松洛 (狂言作者)

原は伊豫國松山城外の眞言宗願成寺住持の還俗したるにて、竹田千前軒の門人となり合作の淨瑠璃に佳作多し、明和八年作る所の妹春山姉女庭訓の淨瑠璃本に松洛七十六歳の作とあれば、頗る長壽せしなるべし、此餘千前軒門人松田和吉文耕堂といふ、吉田冠子といふは人形つかいの名人吉田文三郎の事にして、おのゝ出雲に従ひし高名の作者なり

○三浦道齋 (醫家)

萬延元年六月八日歿  
年八十二

谷町 大仙寺

名は茂樹、道齋と稱す、相州鎌倉の人浪華に住す、國學禪學、書法等に通じ頗る多才なり、著述の書、韻學階梯、補正字林玉篇、標註磨光韻鏡等數種あり、墓面に道齋三浦先生墓と記し、裏に藤澤東畝の文を刻す

○三瓶信庵 (書家)

文久二年八月七日歿

谷町 重願寺

名は魁、字は守己、信州内藤家の臣三瓶清左衛門の男なり、書法を市河米庵に就て學び頗る精妙と稱せらる、大阪高麗橋に住して塾を開く、門人多し、墓面に信庵先生墓と刻す

○三楯大五郎 (俳優)

安政六年五月十三日歿  
六十三

圓妙寺

三代目大五郎の男、幼名由龜後梅玉の門弟となり中村源之助と稱す、後四代目大五郎を嗣ぐ、家號を京樹屋、俳名を龜光又梅升といふ

○湊由良右衛門（力士）

明治四十三年十一月十一日歿  
年五十七

阿部野墓地

島根縣安來の人、大阪に來つて力士となり、名を勢力と稱す、後黒柳と改め幕内前頭筆頭に至る、其年寄となり大木戸、陣幕等を抱へて頭取中の勢力家たり

〔む〕

●村上景吉（醫家）

相長軒と號す、俗稱玄治、著述の書得一餘訓あり

八丁目寺町 大念寺

●村田嘉言（畫工）

嘉永二年六月五日歿  
年

茶臼山南 邦福寺

吉藪蘆と號す、又太岳、俗稱七郎、生玉に住す、春門の男

●無 相（僧）

著述磨光韻鏡紫數種あり

○村井伊兵衛（算術家）

阪正永の門人浪花の人、世々瓦町東堀に住す

○村田春門（歌人）

天保七年十一月廿四日歿  
年七十二

茶臼山南 邦福寺

初名一柳並樹、後春門と改む、郁子園又多豆能屋と號す鈴門名譽の人なり、墓面に村田春門墓、側面に天保七丙申年霜月廿四日終七十二歳、平嘉言建と刻す

○陸奥宗光 (政治家)

明治二十九年八月二十四日歿  
年五十四

夕陽丘

和歌山藩士、初名伊達陽之助、維新の際坂本龍馬、後藤象次郎等と交り、伊藤博文、井上馨等と共に國事に奔走す、明治二十六年外務大臣となる、日清戦役に與つて頗る功あり、爲に伯爵を授らる、墓は家隆塚の東隣、實父自得翁の右手に在り、墓面には伊藤博文の筆にて伯爵陸奥宗光墓の七字を刻す

○陸奥自得翁

陸奥宗光の父

夕陽丘

〔め〕

[も]

●森川竹憲 (書家)

文政十二年二月四日歿  
年六十七

小橋寺町 大應寺

森川氏、名は世黄字離吉、俗稱曹吾と號す、岳王淵に従ひて書を能す、高麗橋井池東に住す、○文政十年六十五歳の時碑文を自書して大應寺に建て後二年を経て卒す

●森周峯 (畫工)

文政六年六月廿二日歿  
年八十四

天満四寺町 西福寺

○墓の高さ二尺餘にして森周峯墓と刻す、法號鐘秀齋高山周峯居士

●森祖仙 (畫工)

文政四年七月廿一日歿  
年七十三

天満四寺町 西福寺

森周峯の舍弟にして近代寫生の名家なり、殊に猿の畫に於いては古今に冠たり後年祖仙を祖仙と更む、○俗稱花屋八兵衛、靈明庵と號す、浪花の人、墓の高さ二尺餘、森祖仙墓と刻す、法號竜光院靈明祖仙禪定門

●森徹山 (畫工)

天保十二年五月六日歿  
年

天満四寺町 西福寺

名は守眞、字は子眞、淀屋小路に住す、墓は高さ五輪塔にして清鑑院恭岳徹山居士と刻す

●森 晋 三 (書家)

●森川安範 (國學家)  
著述大祓解あり

●森川兔毛 (相學家)  
浪花に住す、文政中に歿す

●森 春 溪 (畫工)  
名は有煇、字は仲禿浮世小路に住す、○文政八年刊「肘下選端」の著畫あり

○森 陽 信 (畫工)  
文政五年 歿  
年七十三  
櫛橋正盈門人永春齋と號す、森狙仙の兄なり

○本木昌造  
明治八年九月三日歿  
年五十三  
天王寺

名は永久、梧窓と號す、肥前長崎の人我國活字製造家の元祖なり、法號點林堂  
永久梧窓善士、洋服帶刀にて陣笠を戴ける等身大の銅像を碑の上に建つ

○森田明矩  
寛政三年十一月二十日歿  
天王寺東門外 清壽院

〔や〕

●山内南州 (醫家)

明和七年二月八日歿  
年六十二

小橋 無量寺

著述、傷寒分類證治采詩醫方綱醫案集等あり

●八日庵萬和 (俳諧師)

文政十年五月十七日歿  
年

天王寺東門外 清壽院

●山中松年 (畫工)

文政二年五月廿日歿  
年

上福島 淨祐寺

●山本如春齋

天明四年六月廿七日歿  
年

清水阪下

名典壽、西の宮の人、榮春齋門人

●矢頭長助

元禄十五年八月十五日歿  
年

上福島 淨祐寺

矢頭長助教照は赤穂義士の其一にして、右衛門七教兼の父なり、薄命にして復讐の時にいたらず其年の秋浪花において病死す、惜むへし、碑は讃州の人河田正休の建つる所、文は菊池武賢の撰する所なりといふ

●山本大龍 (書家)

名は命常、字大定、俗稱十藏、攝州五百崎村の人にして書の名家なり

元文二年八月廿一日歿  
年五十二

濱村墓地

●山口日向 (國學家)

龍雷神人と號す、東生郡上の宮の神職なり、國學に達す、著述の書硯馭嵐島日記、幸神祕訣、中臣祓舊傳神國女訓抄等あり、安永中歿す

東生郡上の宮南隣 藏鷲庵

●山中道德

凡齋と號す又光漸鰯池と稱す、浪花の人

●八木巽處 (儒家)

名は走廻、字は孟率、通稱は木兵太、阿波の人浪花に住す

小橋寺町 大應寺

●楊棗樓楫友 (狂歌師)

俗稱木屋市良右衛門、浪花江戸堀に住す、常安橋北詰東

○山本復齋 (儒家)

三宅尙齋門人、名は信義、原藏と稱す、垂加流の神道を唱へ四書に訓點す

享保十五年十一月十二日歿  
年四十三

○安賣屋善右衛門

大阪内平野町二丁目に住し、大阪曆の本家として名高し

上本町 西光院

○山片蟠桃 (實業家)

名は芳秀、字は子蘭、初名有躬、字子石、後これを改む、井屋小右衛門と稱す、稚にし中井竹山に遊び、旁ら麻田剛立に天學を授け、蘭學を喜む、博學を以て聞中井門の孔明と稱せらる、山片平右衛門に仕ふ、經濟學にも其名著はる、法名釋宗文、墓石は長谷川氏墓とのみあり、播州印南郡神戶村の生、長谷川安兵衛弟あり

文政四年二月二十八日歿  
年七十四

天満東寺町 善通寺



〔Φ〕

●由良箕山 (儒家)

文化三年五月廿四日歿  
年六十八

堺 顯本寺

俗稱孫助豊後の人、徂徠派の隱儒にして浪花に教授す、後堺高三氏の家に於て歿す、著述の書麗藻四卷成刻す

●由縁齋貞柳 (狂歌師)

享保十九年八月十五日歿  
年八十一

天王寺 清水寺

永田氏、貞因の長子にして言因といふ、浪花雛屋町に住し代々菓子を製するを以て業とす、豊藏坊信海を師として狂歌を善す、後貞柳と更む、家書數多あり  
○墓碑に林孝徳の文を刻す、辭世、百あても同じ浮世に同じ花、月はまんまる雪は白妙

●夕霧 (遊女)

延寶六年正月六日歿

下寺町 淨國寺

夕霧は浪花新町扇屋四郎兵衛の抱にして名娼なりし事は世に知る所なり、○墓面に花岳芳春信女と刻し、右側には再建の由を記し、左側には鬼貫の句「この墓は柳なくともわはれなり」を題し、下に夕霧墓、裏面には歿年月の外俗名あり

ふきかたきりと刻し、鑄字には悉く朱を加へたり

〔よ〕

●依田新八郎 (武術家)

享和二年五月廿一日歿

蓬坂 一心寺

寶藏院鎗術七代

●吉村周山 (畫工)

安永五年歿  
不知卒年

下寺町 光明寺

名は光興、探仙叟と號す、法眼位に叙す、性川充信門人にして一家をなす、其名春卜と並び稱せらる、初め周次郎と稱し、根付彫刻するに妙を得たり

●吉川松谷

江州彦根の産、中年より大阪に住し歿す

●淀屋今庵

寛永二十年十一月五日歿

谷町寺町 大仙寺

姓は岡本氏、名は言、當玄、今庵と號す、通稱三郎右衛門、父を當安と云ふ、山城の人大阪に住す、中の島を開拓す、今庵家を嗣ぎ大川町に住す、連歌抹茶を善し戯畫に工なり、瀧本坊昭乘、小堀宗甫、佐川田喜六、澤庵和尚等と友と

よ

し善し、又古今傳等を源光寺祇心に受く、曾孫三郎右衛門に至りて家絶ゆ、世に所謂淀屋辰五郎是なり

○吉澤あやめ (俳優)

享保十四年七月十五日歿  
年五十七

谷町 本照寺

初め山下權七として立役なりしが、後芳澤あやめと改名して女形となる、橋屋を以て家號とす、名人なり

○吉澤あやめ (俳優)

寶曆四年七月十八日歿  
年五十三

谷町 本照寺

初代あやめの男、崎之助と稱す、享保十五年二代目を嗣ぐ、家號を橋屋、俳名を春水といふ

○吉澤あやめ (俳優)

安永三年十月十八日歿  
年五十五

谷町 本照寺

二代目の弟初名萬世、明和元年三代目を嗣ぐ、俳名を一鳳といふ

○芳澤あやめ (俳優)

文化七年八月廿五日歿  
年五十六

谷町 本照寺

二代目の門弟初名山下市五郎、後芳澤崎之助と改め、更に四代目あやめとなる

俳名は春水又巴紅といふ

○芳澤あやめ (俳優)

文化六年十二月廿五日歿  
年二十五

谷町 本照寺

初名芳澤五郎市、後いろはと改め四代目の養子となる、文化三年五代目を嗣ぐ、俳名を春水といふ

○淀君

北野 大融寺

豊臣秀頼の母、名は茶々、淺井長政の女なり

〔ら〕

● 頼 春 水 (儒家)

名は惟寛、字は千秋、青山社と號し、又倡性理學と號す、俗稱彌太郎、浪花に住す、文化

● 樂 郊 兄 滅 宗 (儒家)

明和二年五月廿三日歿

上福島 妙徳寺

菅甘谷高弟、橋本宇藏、浪花住